令和５年度

授業概要

Syllabas

理学療法学科

土佐リハビリテーションカレッジ

理学療法学科教育課程表

区分	教育内容	授業 科目名	実務	形式	種類	単位数 1年	2年	3年	4年	卒業要件単位数	指定規則
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活社会の理解	人間科学概論		講義	必修	2					
		社会福祉学概論		講義	必修		2				
		日本語表現法		講義	必修	2					
		保健用語		講義	必修	2					
		基礎英語		講義	必修	2					
		医学英語		講義	必修		2				
		医療統計学		講義	必修	2					
		情報処理入門		演習	必修	1					
		医療コミュニケーション論		演習	必修	1					
		保健体育		実技	必修	1					
		小計				13	4	0	0	17	14
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	人体の構造機能入門		講義	必修	1					
		人体の構造Ⅰ		講義	必修	3					
		人体の構造Ⅱ		講義	必修	3					
		人体の機能Ⅰ		講義	必修	3					
		人体の機能Ⅱ		講義	必修	3					
		人体の構造機能演習		演習	必修	1					
		脳科学概論		講義	必修	2					
		人間発達学		講義	必修	2					
		運動学Ⅰ（総論・下肢）		講義	必修	2					
		運動学Ⅱ（上肢・体幹）		講義	必修	2					
		運動学実習		実習	必修	1					
		体表解剖学		実習	必修		1				
		運動生理学		講義	必修		2				
		神経生理学		講義	必修		2				
		小計				23	5	0	0	28	12
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学		講義	必修	2					
		病理学演習		演習	必修	1					
		内科学		講義	必修		2				
		整形外科学		講義	必修		2				
		精神医学		講義	必修		2				
		小児科学		講義	必修		2				
		神経内科学		講義	必修		2				
		臨床心理学		講義	必修		2				
		整形外科学演習		演習	必修		1				
		神経内科学演習		演習	必修		1				
		精神医学演習		演習	必修		1				
		栄養と薬剤		講義	必修			1			
		災害と救急救命		講義	必修			1			
		小計				3	15	2	0	20	14
	保健医療福祉とﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの理念	リハビリテーション概論		講義	必修	2					
		リハビリテーション医学		講義	必修	2					
		医療倫理学		講義	必修	1					
		作業療法概論		講義	必修			1			
		小計				5	0	1	0	6	4

理学療法学科教育課程表

区分	教育内容	授業 科目名	実務	形式	種類	単位数 1年	2年	3年	4年	卒業要件単位数	指定規則
専門分野	基礎理学療法学	理学療法概論Ⅰ（総論）	○	講義	必修	1					
		理学療法概論Ⅱ（評価・治療学）	○	講義	必修	1					
		理学療法研究法		講義	必修			1			
		臨床実習入門		講義	必修			1			
		理学療法セミナーⅠ（卒業研究計画）		演習	必修			1			
		理学療法セミナーⅡ（国家試験対策）		演習	必修				2		
		卒業研究		演習	必修				2		
		小計				2	0	3	4	9	6
	理学療法管理学	理学療法部門管理論		講義	必修			1			
		理学療法教育論		講義	必修			1			
		小計				0	0	2	0	2	2
	理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ（総論・バイタル・形態）	○	講義	必修	1					
		理学療法評価学Ⅱ（ROM・感覚）	○	講義	必修		1				
		理学療法評価学Ⅲ（筋力）	○	講義	必修		1				
		理学療法評価学Ⅳ（神経・画像評価）	○	講義	必修		1				
		理学療法評価実習	○	実技	必修		1				
		理学療法評価法演習	○	演習	必修		1				
		運動分析学	○	講義	必修		1				
		小計				1	6	0	0	7	6
	理学療法治療学	運動療法学Ⅰ（総論）	○	講義	必修		1				
		運動療法学Ⅱ（障害別各論）	○	講義	必修		1				
		物理療法学Ⅰ（温熱・光線療法）	○	講義	必修			1			
		物理療法学Ⅱ（電気療法）	○	講義	必修			1			
		装具療法学Ⅰ（下肢）	○	講義	必修		1				
		装具療法学Ⅱ（上肢・体幹）	○	講義	必修		1				
		義肢学		講義	必修			1			
		義肢装具学演習		演習	必修			1			
		日常生活活動学Ⅰ（総論）	○	講義	必修		1				
		日常生活活動学Ⅱ（障害別各論）	○	講義	必修		1				
		神経障害理学療法学Ⅰ（脳卒中）	○	講義	必修		1				
		神経障害理学療法学Ⅱ（神経筋疾患）	○	講義	必修		1				
		神経障害理学療法学Ⅲ（脊髄損傷）	○	講義	必修			1			
		発達障害理学療法学	○	講義	必修			1			
		運動器障害理学療法学Ⅰ（下肢）	○	講義	必修		1				
		運動器障害理学療法学Ⅱ（上肢）	○	講義	必修		1				
		運動器障害理学療法学Ⅲ（体幹）	○	講義	必修			1			
		スポーツ理学療法学		講義	必修			1			
		内部障害理学療法学Ⅰ（呼吸）	○	講義	必修			1			
		内部障害理学療法学Ⅱ（循環）		講義	必修			1			
		内部障害理学療法学Ⅲ（代謝・腎・がん）	○	講義	必修			1			
		医療機器概論		講義	必修			1			
		理学療法技術論（熱傷・褥瘡含む）	○	講義	必修			1			
		理学療法特論Ⅰ（臨床思考）		講義	必修			1			
		理学療法特論Ⅱ（症例検討）		講義	必修			1			
		理学療法特論Ⅲ（理学療法トピックス）		講義	必修				1		
		小計				0	10	15	1	26	20
	地域理学療法学	地域リハビリテーション学		講義	必修			1			
		地域リハビリテーション演習	○	演習	必修			1			
		地域理学療法学		講義	必修			1			
		小計				0	0	3	0	3	3
	臨床実習	見学実習Ⅰ		実習	必修	1					
		見学実習Ⅱ（訪問・通所リハ）		実習	必修				1		
		臨床評価実習		実習	必修		3				
		臨床総合実習Ⅰ		実習	必修			7			
		臨床総合実習Ⅱ		実習	必修				10		
		小計				1	3	7	11	22	20
	総計					48	43	33	16	140	101

令和５年度　授業時間割表（１学年）

前期時間割

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
１時限目 9:00 ～ 10:30	人体の構造Ⅰ 大迫　4月下旬より開始 305中講義室 4月人体の構造機能入門　岡部	保健体育 神家 体育館	医療倫理学 渡邊・竹林・近藤 101講義室	人体の機能Ⅰ 椛　4月下旬より開始 305中講義室 4月人体の構造機能入門　奥田	情報処理入門 近藤 情報演習室	
２時限目 10:40 ～ 12:10	人体の構造Ⅰ 大迫　4月下旬より開始 305中講義室 4月人体の構造機能入門　岡部	運 動 学 Ⅰ 井上 101講義室	人間発達学 宮本 305中講義室	人体の機能Ⅰ 椛　4月下旬より開始 305中講義室 4月人体の構造機能入門　奥田	基礎英語 宮本（祥） 101講義室	
３時限目 13:20 ～ 14:50	理学療法概論Ⅰ 竹林 101講義室	人間科学概論 李 305中講義室	チュートリアル	リハビリテーション概論 宅間・竹林・畑田 305中講義室	医療コミュニケーション論 筒井 101講義室	
４時限目 15:00 ～ 16:30					医療コミュニケーション論 筒井 101講義室	
５時限目 16:40 ～ 18:10						

後期時間割

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
１時限目 9:00 ～ 10:30	人体の構造Ⅱ 大迫 305中講義室	人体の構造機能演習 奥田 101講義室	運動学実習 近藤 101講義室	人体の機能Ⅱ 椛 305中講義室	病理学演習 宮本（祥） 101講義室	
２時限目 10:40 ～ 12:10	人体の構造Ⅱ 大迫 305中講義室	理学療法評価学Ⅰ 岡部 101・204評価治療室	日本語表現法 公文 101講義室	人体の機能Ⅱ 椛 305中講義室	リハビリテーション医学 井上 101講義室	
３時限目 13:20 ～ 14:50	病 理 学 高橋 305中講義室	運 動 学 Ⅱ 井上 101講義室	医療統計学 宅間 101講義室	脳科学概論 繁桝 305中講義室	理学療法概論Ⅱ 竹林・岡部 101・204評価治療室	
４時限目 15:00 ～ 16:30		保 健 用 語 奥田 101講義室				
５時限目 16:40 ～ 18:10						

（注）時間割は原則的なものであり変更する場合があります。

令和５年度　授業時間割表（２学年）

前期時間割

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
１時限目 9:00 ～ 10:30	理学療法評価学Ⅱ 近藤 102講義室	運動療法学Ⅰ 竹林 102講義室	整形外科学演習 奥田 102講義室		精神医学 藤田・上村 306中講義室	
２時限目 10:40 ～ 12:10	精神医学演習 井上 102講義室	装具療法学Ⅰ 渡邊 102講義室	理学療法評価学Ⅲ 宮本（祥） 204評価治療室	日常生活活動学Ⅰ 井上 102講義室	神経障害理学療法学Ⅰ 渡邊 102講義室	
３時限目 13:20 ～ 14:50	体表解剖学 岡部 204評価治療室	医学英語 宮本（祥） 102講義室	整形外科学 宅間 306中講義室	理学療法評価学Ⅳ 岡部 102・204評価治療室	運動器障害理学療法学Ⅰ 奥田 102講義室	
４時限目 15:00 ～ 16:30		神経生理学 岡部 102講義室	内 科 学 高知大学医学部スタッフ他 306中講義室			
５時限目 16:40 ～ 18:10						

後期時間割

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
１時限目 9:00 ～ 10:30	理学療法評価法演習 宮本 102講義室	神経内科学（10～2月予定） 大崎　他 306中講義室	運動器障害理学療法学Ⅱ 奥田 102講義室		運動生理学 宅間 102講義室	
２時限目 10:40 ～ 12:10	運動療法学Ⅱ 竹林 102・204評価治療室	神経内科学（11～2月予定） 大崎　他 306中講義室	運動分析学 渡邊 102講義室	日常生活活動学Ⅱ 井上 102講義室	装具療法学Ⅱ 渡邊 102講義室	
３時限目 13:20 ～ 14:50	神経内科学演習 岡部 102講義室	小 児 科 学 島崎 306中講義室	理学療法評価実習 奥田・渡邊・近藤 204評価治療室・205レク室	神経障害理学療法学Ⅱ 渡邊 102講義室	臨床心理学 鹿間 306中講義室	
４時限目 15:00 ～ 16:30			理学療法評価実習 奥田・渡邊・近藤 204評価治療室・205レク室		社会福祉学概論 稲垣 306中講義室	
５時限目 16:40 ～ 18:10						

（注）時間割は原則的なものであり変更する場合があります。

令和５年度　授業時間割表（３学年）

前期時間割

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
１時限目 9:00 ～ 10:30	地域ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学 井上 103講義室	物理療法学Ⅰ 岡部 103・204評価治療室	作業療法概論 作業療法学科教員 103講義室	理学療法セミナーⅠ 全教員 各セミナー室	義肢学：鶴見 または 理学療法特論Ⅰ：川村	
２時限目 10:40 ～ 12:10	運動器障害理学療法学Ⅲ 奥田 103講義室	神経障害理学療法学Ⅲ 宮本（祥） 103講義室	理学療法研究法 竹林他 103講義室	内部障害理学療法学Ⅰ 宅間 103・204評価治療室	義肢学：鶴見 または 理学療法特論Ⅰ：川村	
３時限目 13:20 ～ 14:50	地域ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ演習 近藤 103講義室	災害と救急救命 武田　他 または 栄養と薬剤 大坪・長﨑	理学療法技術論 宮本省三　他 103講義室	内部障害理学療法学Ⅱ 大重・近藤　他 103講義室	地域ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学 滝本 103講義室	
４時限目 15:00 ～ 16:30		災害と救急救命 武田　他 または 栄養と薬剤 大坪・長﨑	理学療法技術論 宮本省三　他 103講義室		地域ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学 滝本 103講義室	
５時限目 16:40 ～ 18:10						

後期時間割

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
１時限目 9:00 ～ 10:30	内部障害理学療法学Ⅲ 近藤 103講義室	発達障害理学療法学 宮本（祥） 103講義室	物理療法学Ⅱ 岡部 103・204評価治療室	地域理学療法学 吉良 103講義室	スポーツ理学療法学 竹林 103講義室	
２時限目 10:40 ～ 12:10	内部障害理学療法学Ⅲ 近藤 103講義室	発達障害理学療法学 宮本（祥） 103講義室	物理療法学Ⅱ 岡部 103講義室	地域理学療法学 吉良 103講義室	スポーツ理学療法学 竹林 103講義室	
３時限目 13:20 ～ 14:50	理学療法特論Ⅱ 奥田 103講義室	理学療法教育論 宮本・奥田・近藤 103講義室	義肢装具学演習 小谷 303ADL室	臨床実習入門 宅間　他 103講義室	理学療法管理論 非常勤講師 103講義室	
４時限目 15:00 ～ 16:30			義肢装具学演習 小谷 303ADL室	臨床実習入門 宅間　他 103講義室	医療機器概論 非常勤講師 103講義室	
５時限目 16:40 ～ 18:10						

（注１）時間割は原則的なものであり変更する場合があります。
（注２）内部障害理学療法学Ⅱは９月に集中講義の予定があります。

令和５年度　授業時間割表（４学年）

前期時間割　　４月６日（木）～５月１２日（金）

症　例　報　告　会　他

５月１５日（月）～７月２２日（土）

臨 床 総 合 実 習 Ⅱ

７月３１日（月）～８月４日（土）

見 学 実 習 Ⅱ

後期時間割　　１０月２日（月）～３月９日（土）

理 学 療 法 セ ミ ナ ー Ⅱ
理 学 療 法 特 論 Ⅲ
卒 業 研 究

理学療法学科教育課程表　目次

基礎分野

	頁
人間科学概論	1
社会福祉学概論	2
日本語表現法	3
保健用語	4
基礎英語	5
医学英語	6
医療統計学	7
情報処理入門	8
医療コミュニケーション論	9
保健体育	10

専門基礎分野

	頁
人体の構造機能入門	11
人体の構造Ⅰ	12
人体の構造Ⅱ	13
人体の機能Ⅰ	14
人体の機能Ⅱ	16
人体の構造機能演習	18
脳科学概論	19
人間発達学	20
運動学Ⅰ（総論・下肢）	21
運動学Ⅱ（上肢・体幹）	22
運動学実習	23
体表解剖学	24
運動生理学	25
神経生理学	26
病理学	27
病理学演習	28
内科学	29
整形外科学	30
精神医学	31
小児科学	32
神経内科学	33
臨床心理学	34
整形外科学演習	35
神経内科学演習	36
精神医学演習	37
栄養と薬剤	38
災害と救急救命	39
リハビリテーション概論	40
リハビリテーション医学	41
医療倫理学	42
作業療法概論	43

専門分野

理学療法概論Ⅰ（総論）	44
理学療法概論Ⅱ（評価・治療学）	45
理学療法研究法	46
臨床実習入門	47
理学療法セミナーⅠ（卒業研究計画）	48
理学療法セミナーⅡ（国家試験対策）	49
卒業研究	50
理学療法部門管理論	51
理学療法教育論	52
理学療法評価学Ⅰ（総論・バイタル・形態）	53
理学療法評価学Ⅱ（ROM・感覚）	54
理学療法評価学Ⅲ（筋力）	55
理学療法評価学Ⅳ（神経・画像評価）	56
理学療法評価実習	57
理学療法評価法演習	58
運動分析学	59
運動療法学Ⅰ（総論）	60
運動療法学Ⅱ（障害別各論）	61
物理療法学Ⅰ（温熱・光線療法）	62
物理療法学Ⅱ（電気療法）	63
装具療法学Ⅰ（下肢）	64
装具療法学Ⅱ（上肢・体幹）	65
義肢学	66
義肢装具学演習	67
日常生活活動学Ⅰ（総論）	68
日常生活活動学Ⅱ（障害別各論）	69
神経障害理学療法学Ⅰ（脳卒中）	70
神経障害理学療法学Ⅱ（神経筋疾患）	71
神経障害理学療法学Ⅲ（脊髄損傷）	72
発達障害理学療法学	73
運動器障害理学療法学Ⅰ（下肢）	74
運動器障害理学療法学Ⅱ（上肢）	75
運動器障害理学療法学Ⅲ（体幹）	76
スポーツ理学療法学	77
内部障害理学療法学Ⅰ（呼吸）	78
内部障害理学療法学Ⅱ（循環）	79
内部障害理学療法学Ⅲ（代謝・腎・がん）	80
医療機器概論	81
理学療法技術論（熱傷・褥瘡含む）	82
理学療法特論Ⅰ（臨床思考）	83
理学療法特論Ⅱ（症例検討）	84
理学療法特論Ⅲ（理学療法トピックス）	85
地域リハビリテーション学	86
地域リハビリテーション演習	87
地域理学療法学	88
見学実習Ⅰ	89
見学実習Ⅱ	90
臨床評価実習	91
臨床総合実習Ⅰ	92
臨床総合実習Ⅱ	93

基　礎　分　野

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
（必）人間科学概論	2	1	前期	３０	（文化人類学博士）李　賢珠＜非常勤講師＞

授業概要

この授業では、人間科学の基礎である「人間とはどのような存在か？」の質問に対し、文化及び医療人類学の視点から世界中の人間の身体への捉え方を考えていきます。　人類は進化の過程で様々な身体的特徴を獲特し、独特の文化を持つようになりました。同時に、人類の身体は個別の物質的存在にとどまらず、社会性を持ち、つながりのなかで共感能力を高めていきました。文化や社会との関連から身体について考えることを通じて、将来リハビリテーションのなかで人間の身体を扱う職業人としての知識・教養を養っていきます。

学習目標

１．進化の過程からみた人類の身体と文化の特徴を理解する。
２．人間の身体を文化や社会との関連から理解する。

授業計画

回	主　　題
1	授業の趣旨・概要の説明
2	進化の過程からみた人類の身体と文化（1）
3	進化の過程からみた人類の身体と文化（2）
4	進化の過程からみた人類の身体と文化（3）
5	Test1
6	身体と社会（１）
7	身体と社会（２）
8	身体と社会（３）
9	身体と社会（４）
１０	Test2
１１	身体発達と老化
１２	身体発達と老化
１３	人体と飲食
１４	人体と飲食
１５	期末試験

履修の認定

授業中に提出してもらう課題及びテスト
期末試験

教科書

使用しません。毎回ハンドアウトを配付します。

参考書

授業中に適宜紹介しますが、参考書として以下を紹介しておきます。

明和政子『ヒトの発達の謎を解く』(筑摩書房、2019 年)
Wiley, Andrea S. and Allen, John S.（2013）. Medical Anthropology: A Biological Approach. New York: Oxford University.

授業科目	単位数	年次	学期	時間数	担当教員
（必）社会福祉学概論	2	2	後期	３０	（社会福祉学修士）稲垣佳代＜非常勤講師＞ 高知県立大学助教　社会福祉学部

授業概要

社会福祉の概念、法制、方法、動向などの基礎知識を習得する。さらに、具体の事例から、社会福祉の対象者が直面する「暮らしづらさ」とそれを支える社会福祉援助活動について考察することにより、実践科学としての社会福祉について理解を深める。講義を中心に展開する。

学習目標

１．社会福祉にかかわる基礎知識を習得する。
２．社会福祉援助活動の基本的枠組みについて理解する。
３．社会福祉実践における専門性と理学療法士、作業療法士が有する専門性の共通項と差異を認識し、臨床場面において社会福祉専門職と連携を図るために必要な視点を習得する。

授業計画

回	主題
1	社会の仕組みと人びとの暮らし
2	社会福祉とはなにかⅠ（社会福祉の理念と概念）
3	社会福祉とはなにかⅡ（社会福祉の対象と機能）
4	社会福祉の歴史
5	社会福祉とニード
6	社会福祉にかかわる法律･制度･施策Ⅰ
7	社会福祉にかかわる法律･制度･施策Ⅱ
8	社会福祉にかかわる法律･制度･施策Ⅲ
9	社会福祉に従事する人びと
１０	社会福祉援助活動の基本的枠組みⅠ
１１	社会福祉援助活動の基本的枠組みⅡ
１２	社会福祉援助活動の展開Ⅰ
１３	社会福祉援助活動の展開Ⅰ
１４	まとめ
１５	試験

履修の認定

出席（30%）、期末試験（筆記試験、レポート課題）（70%）を基準に、平常点を考慮し評価する。

教科書

１．七訂版 社会福祉概論　　西村昇・日開野博・山下正國　編　　中央法規出版

参考書

授業中に適宜紹介する。

授業科目	単位数	年次	学期	時間数	担当教員
（必）日本語表現法	2	1	後期	３０	(文学修士)公文　素子<非常勤講師>

授業概要

漢字や句読点、誤用表現、敬語など、社会人として必要な日本語力を身に付ける。また、自分の考えや意見を相手に「説得力」を持って伝えるために、必要な考え方や文章の書き方を段階的に学んでいく。

学習目標

１．「正しい」日本語が使える
２．簡潔で、要領を得た表現力を身に付ける
３．エッセイ（相手に説得力を持って伝える文章）の書き方、書く際の考え方の習得
４．話し手の意図を理解したコミュニケーション能力の習得

授業計画

回	主題
1	オリエンテーション　－マッピング用紙を用いた自己紹介－
2	漢字（同音異義語・同訓異字を含む）
3	句読点
4	見やすい表記①
5	見やすい表記②
6	日本語の誤用表現
7	敬語①
8	敬語②
9	アカデミックワードと日常語
１０	「エッセイ」とは　ーエッセイを書く（「自由に」書いてみよう）ー
１１	エッセイを書く：ブレインストーミングシート・アウトラインシートの書き方
１２	アウトラインシートの訂正①
１３	アウトラインシートの訂正②
１４	アウトラインの訂正③、清書
１５	後期試験

履修の認定

出席・エッセイ（ブレインストーミングシート・アウトラインシートも含む）の提出・試験による総合判断

注意事項

積極的参加

教科書

特になし

参考書

１．5段落エッセイ指導で日本の子供が変わる　松本輝彦　リーブル出版
２．大学生のための日本語トレーニング　（ドリル編）安部朋世他編　三省堂
３．美しい日本語と正しい日本語が身に付く本　日経BP社
４．大学生のための日本語表現実践ノート　米田明美、藏中さやか、山上登志美　風間書房

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
（必）保健用語	2	1	後期	３０	（医博）奥田　教宏 ＜本校講師＞ 理学療法士

授業概要

本科目は、医療スタッフの一員として他職種と議論を行うために知っておくべき一般医学用語と、リハビリテーション医学分野の対象疾患や障害を理解する上で重要な医学用語を学習する。授業では用語の学習と同時に疾患の概要や病態生理の知識も整理する。

学習目標

1．基礎的な一般医学用語を理解する。
2．リハビリテーション医学の対象となる疾患や障害の病態生理を理解する上で重要な医学用語を理解し、解説できる。

授業計画

回	主　　題
1	解剖学に関する用語①
2	解剖学に関する用語②
3	薬剤に関する用語
4	病院内で関わる職種
5	整形外科疾患に関する用語
6	骨折に関する用語
7	中間試験
8	内科疾患に関する用語①
9	内科疾患に関する用語②
１０	呼吸器・循環器系疾患に関する用語
１１	摂食・嚥下障害に関する用語
１２	脳血管障害に関する用語①
１３	脳血管障害に関する用語②
１４	脳血管障害に関する用語③
１５	単位認定試験

履修の認定

筆記試験の成績
成績は、中間試験 50%と単位認定試験 50%の合計点とする。

教科書

配布プリント
タブレットもしくはパソコン、授業時間に必要な科目の教科書を持参

参考書

1．理学療法学事典　奈良勲（監）　医学書院

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　　当　　教　　員
（必）基礎英語	２	１	前期	３０	（学術修士）宮本祥子＜本校講師＞ 理学療法士

授業概要

医療現場・リハビリテーション現場で必要と思われる定形表現を身につけることが目的である。講義では、定型表現に使われている初歩的な文法を再学習し、応用表現も練習する。また、医療に関する基本的な専門用語も覚え、発音できるように練習する。

講義の後半には、医療に関する英語ニュースの記事の読解にも取り組む。

学習目標

１．病院内で頻出する簡単な会話表現が理解できる。
２．基本的な英単語に加えて、英語の医療専門用語を覚える。
３．基本的な文法を復習し、簡単な短文が作れるようになる。
４．英語ニュースの記事の内容がわかる。
５．基本的な医療英単語の使われ方がわかる。

授業計画

回	主　　題
1	自己紹介をする
2	医療職種の名称
3	検査に関する表現
4	院内各科の名称の表現
5	不調・痛みを訴える
6	既往歴を尋ねる
7	まとめ
8	中間試験
9	医療関連の英語ニュースの記事の紹介・単語の意味の確認
１０	英語ニュースを読む(1)
１１	英語ニュースを読む(2)
１２	英語ニュースを読む(3)
１３	英語ニュースを読む(4)
１４	まとめ・解剖学と運動学に関する用語
１５	期末試験

履修の認定

筆記試験 90%、出席状況と受講状況(課題の提出を含む)10%

教科書

毎回担当教員が作成したプリントを配布する。

注意事項

基本的に毎時間授業ノートの提出を求める。評定に加味するので丁寧に仕上げること。

参考書

１．リハビリテーションの基礎英語 第３版 清水雅子（編著） MEDICAL VIEW 2017
２．VOA Learning English　https://learningenglish.voanews.com/
３．医療職が覚えておきたい運動・動作の英語表現　飯田恭子　医学書院　2007
４．キクタンメディカル〈1〉人体の構造編―聞いて覚える医学英単語（英語でつなぐ世界といのち医学英語シリーズ）　高橋玲　アルク　2010

授業科目	単位数	年次	学期	時間数	担当教員
（必）医学英語	2	2	前期	３０	（学術修士）宮本　祥子＜本校講師＞ 理学療法士

授業概要

リハビリテーション医学分野で頻出する専門英語を日本語、英語両面から表現し、解説できることが第一の目標である。また、英語の学習を通して障害や疾患についての概要や病態生理の知識を整理する。授業の後半には、医学・保健に関する英文テキストを講読する。テキストの内容と英語論文の構成について理解して欲しい。

学習目標

１．リハビリテーション医学の基礎的な専門英語を単語レベルで日本語、英語両面から表現できる。
２．リハビリテーション医学分野で対象となる障害や疾患についての学術用語を英語で表現し、意味を解説できる。
３．英文テキストの内容とテキストに出現する医療英単語が理解できる。
４．英語論文の構成がわかる。

授業計画

回	主題
1	身体運動の表現・指向語
2	疾患の名称
3	運動麻痺・筋緊張の異常
4	理学療法評価法
5	運動療法
6	異常歩行
7	１～６回のまとめ（中間テスト）
8	筋肉の名称
9	医学用語にみられる接頭語・接尾語の整理
１０	英語論文の構成
１１	英語論文の構成と最新のトピックス①
１２	〃　②
１３	〃　③
１４	まとめ
１５	期末試験

履修の認定

筆記試験 90%、出席状況と受講状況(課題の提出を含む)10%

教科書

毎回担当教員が作成したプリントを配付する。
毎回、単語や文が翻訳できる機器（ノート型PC、タブレット、電子辞書など）を必ず持参のこと。

参考書

１．リハビリテーションの基礎英語 第３版 清水雅子（編著） MEDICAL VIEW 2017
２．VOA Learning English https://learningenglish.voanews.com/
３．リハビリテーション医学・医療用語集 第８版 日本リハビリテーション医学会編 2019
４．理学療法学事典 奈良勲（監修）医学書院 2006

授業科目	単位数	年次	学期	時間数	担当教員
（必）医療統計学	2	1	後期	３０	（保健学博士）宅間　豊＜本校講師＞ 理学療法士

授業概要

統計学とは「ばらついている情報を客観的に分析し、評価する学問」と言われている。理学療法士にとっては、研究論文を読む際や作成する際に不可欠な知識となる。

よって、この授業では理学療法士に必要な統計学の基礎知識と基本的統計処理の実践力を身につけることを目的に講義や演習を行う。

学習目標

理学療法士にとって必要な統計学の基礎知識と基本的統計処理の実践力を身につけることができる。

授業計画

回	主題
1	医療統計学の必要性
2	尺度分類
3	特性値１（平均値・中央値・最頻値）
4	特性値２（範囲・分散・標準偏差・変動係数）
5	データ分布の表示（ヒストグラム・箱ひげ図）
6	母平均の推定
7	母比率の推定
8	仮説検定の考え方
9	等分散性の検定（F 検定）
１０	対応のないｔ検定
１１	対応のあるｔ検定
１２	ピアソンの相関係数
１３	スペアマンの順位相関係数
１４	回帰直線
１５	定期試験

履修の認定

定期試験成績により認定する。

注意事項

計算機（√計算機能付）を持参すること。

教科書

１．やさしい保健統計学　縣俊彦（著）　南江堂
２．配布プリント

参考書

１．ビギナーのための統計学　渡邊宗孝・寺見春恵（著）　共立出版
２．医学・保健学のためのやさしい統計学　正井栄一（著）　金原出版
３．やさしい保健統計学　縣俊彦（著）　南江堂
４．すぐできるリハビリテーション統計　山本澄子・谷浩明（監）　南江堂

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
（必）情報処理入門	1	1	前期	１５	（医科学修士）近藤　寛＜本校講師＞ 理学療法士

授業概要

情報化が世界的規模で爆発的な広がりを見せ、情報化による多元的な価値が次々と創造されている。膨大にある情報の中から必要な情報を的確にかつ効率良く得ることが必要である。本講義では、基本的なパーソナルコンピュータ（PC）の操作を習得するだけでなく、情報リテラシーやPCを活用した学習方法を身につける。

学習目標

１．基本的なPCの操作を習得する。
２．PCを使用した学習活動を理解する。
３．プレゼンテーション技術や資料作成、検索技術などを習得する。

授業計画

回	主　　題
1	各種設定（学内Wi-Fi、Googleクラスルームなど）・自己紹介
2	インターネット・E-mail・PCのセキュリティ
3	Wordの活用法　①
4	Wordの活用法　②
5	Word課題発表
6	Excelの活用法　①
7	Excelの活用法　②
8	PowerPointの活用法　①
9	PowerPointの活用法　②
１０	PowerPoint課題発表

履修の認定

出席状況、受講態度、課題発表・提出の内容など総合的に判断する。

注意事項

USBメモリもしくは外付けHHD１個を準備すること。
ノートパソコンまたはiPadを所有している者は、持参すること。
所有しているノートパソコンまたはiPadのセキュリティ環境を確認しておくこと。

教科書

印刷プリントの配布またはメールでデータファイルの配布

参考書

１．これだけは知っておこう！情報リテラシー　　noa出版　2017
２．今すぐ使えるかんたんMicrosoft365　技術評価社　2020

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
(必)医療コミュニケーション論	1	1	前期	１５	(学術修士) 筒井　典子＜非常勤講師＞ 人・みらい研究所　代表 中村　覚＜非常勤講師＞ 人・みらい研究所

授業概要

医療現場においては「疾病」「患者」を見るのではなく、その人全体を見ていくことが 医療従事者の責務である。それには、現場での良い人間関係を構築することが必須となる。
そのためにコミュニケーションの基礎技術を身に付け プロとしての人間関係を豊かに築いていけるよう、医療サービスマインド論をベースとした、傾聴・ストローク（人との関わり）・ビジネスマナーを身につける。また、障がいを持つ方々を理解し寄り添えるよう、ユニバーサル・マナーで様々な障がいについての知識を学び、体感し、医療ホスピタリティを向上させ、人としての感性を豊かに築いていく。

学習目標

・専門力と同様に、高い人間力を育てる。
・弱者にも心を寄せられる、人としての感性を育てる。
・自分で考え判断し責任を持つ、自律性を高める。

授業計画

回	主　　題	担当
1	ストローク	筒井・中村
2	傾聴	筒井・中村
3	医療サービスマインド論、マナー	筒井
4	医療コミュニケーション	筒井
5	ユニバーサル・マナー	筒井・中村
6	医療ホスピタリティ向上演習	筒井・中村
7	障がいケーススタディー①	筒井・中村
8	障がいケーススタディー②	筒井・中村

履修の認定

２コマに１回のレポート提出。特に最終回の２コマは出席必須で、そのレポート内容により、単位取得となる。

教科書

特に使用せず、オリジナル資料で学ぶ。

参考書

参考書については、適宜紹介する。

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　　当　　教　　員
（必）保健体育	1	1	前期	３０	神家　一成＜非常勤講師＞ 高知大学　名誉教授

授業概要

本授業では、日常的で行い易い運動や非日常的で行い難い運動に取り組み、自由自在に行える心地よさや楽しさを味わったり、思い通りにならない自己の身体に出会った時の不安感やもどかしさを感じたりする体験を通して、運動と身体との関りについて学習する。

運動の内容としては、ストレッチング、ジョグ＆ウオーキング等の用具を用いない運動やロープ、ボール、ディスク等の用具を用いた多様な運動を個人やペア及びグループで行う。

学習目標

１．自己の心と体が互いに関係していることや他者の心や体とも関わっていることを理解することができる。
２．各種技芸やスポーツの運動技能の獲得を目指し、粘り強く取り組むことができる。
３．健康に対する運動の効果に関心を持つことができる。

授業計画

回	主　　題
1	オリエンテーション、各種のストレッチング
2	体ほぐしの運動、コーディネーショントレーニング
3	ウオーキング、ジョギング
4	短なわとび：移動とび、ペア跳び、一跳躍二回旋とびバリエーション
5	長なわとび：ダブルダッチ①
6	長なわとび：ダブルダッチ②
7	ボールを使った運動
8	ボールを使ったスポーツゲーム①
9	バランスボールを使った運動①
１０	バランスボールを使った運動②
１１	リングを使った運動①
１２	リングを使った運動②
１３	ディスクを使った運動
１４	ディスクを使ったゲーム
１５	ボールを使ったスポーツゲーム②

履修の認定

授業への積極的な参加（50%）、技能向上に向けた努力と仲間への協力（30%）、技能や戦術の獲得（20%）などの観点から、総合的に評価する。実技試験は行わない。

注意事項

○スポーツ活動に相応しい服装と体育館用のシューズを着用すること。
○授業中の水分補給を許可する。ただし、フロアを濡らさないように留意すること。
○許可された場合以外は、授業中の携帯電話使用を禁止する。

教科書

使用しない。必要な情報は随時作成して提示する。

専門基礎分野

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　　当　　教　　員
（必）人体の構造機能入門	1	1	前期	15	（教育学修士）岡部　孝生＜本校講師＞ 理学療法士 （医博）奥田　教宏＜本校講師＞ 理学療法士

授業概要

ヒトを治療の対象とする理学療法士にとって、人体の構造と機能の理解は非常に重要である。しかし高校までに学ぶ機会が少ないこれらの内容は、一般の方にとって馴染みにくいものでもある。そこで本科目では、後に開講される科目（人体の構造と人体の機能）の円滑な学習開始を支援することを目的に開講する。理学療法士はヒトの運動にかかわる事が多いため、人体の中でも運動器（主に骨、筋）の構造と機能の基本的な内容を取り上げる。

学習目標

1．人体の構造と機能に興味を持つ。
2．骨、筋についての基本を学ぶ。
3．ニューロン、筋、神経系の機能の基本について学ぶ。
4．後に開講される「人体の構造Ⅰ」ならびに「人体の機能Ⅰ」の学習開始を支援する。

授業計画

回	主　　題
1	骨格系（骨の名称とランドマーク）
2	ニューロンの基本的機能
3	骨格系（関節の名称と関節の種類）
4	筋の基本的機能
5	筋系（概論、筋の名称と位置①）
6	神経系の基本機能
7	筋系（筋の名称と位置②）
8	まとめ
9	単位認定試験

履修の認定

定期試験（100％：構造領域 50％、機能領域 50％）

教科書

1．PT・OT ビジュアルテキスト解剖学　町田志樹　羊土社　2018
2．プロメテウス解剖学アトラス コンパクト版　第 2 版　坂井建雄　医学書院　2019
3．PT・OT ビジュアルテキスト　リハビリテーション基礎評価学　第 2 版　潮見泰藏・下田信明　羊土社　2019
4．シンプル生理学　第 7 版　貴邑冨久子・他　南江堂　2016

参考書

1．骨格筋の形と触察法　第 2 版　河上敬介ほか　大峰閣　2013
2．標準解剖学　医学書院　坂井建雄　医学書院　2017
3．標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　第 5 版　奈良勲他　医学書院　2020
4．標準生理学　小澤瀞司・他　医学書院

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
（必）人体の構造Ⅰ	3	1	前期	４５	（獣医学博士）大迫　洋治＜非常勤講師＞ 高知大学准教授　医学部解剖学講座

授業概要

本科目では人体を構成する細胞および４つの基本組織について学習し、これらによって成り立っている骨、筋および神経系（特に末梢神経系）の構造について具体的に理解できるよう講義する。骨、筋、神経が運動において密接に関与し合っていることを理解する。

学習目標

１．細胞の基本構造および身体がどのような基本組織で構成されているかを理解する。
２．人体を構成する骨および骨格の構造やその機能について理解する。
３．人体の運動に関与する骨格筋について理解する。
４．脳神経および脊髄神経について理解する。

授業計画

回	主　　題
1	総論１：人体の構成単位
2	総論２：細胞の基本構造
3	総論３：身体の区分・面や方向を示す用語、骨の構造
4	総論４：筋の構造・関節の形態と可動域
5	総論５：神経系の区分
6	総論６：神経系を構成する細胞
7	上肢１：上肢の骨・関節
8	上肢２：上肢帯・上腕の筋
9	上肢３：前腕・手の筋
１０	上肢４：腕神経叢
１１	下肢１：下肢の骨・関節
１２	下肢２：大腿の筋
１３	下肢３：下腿・足の筋
１４	下肢４：腰神経叢・仙骨神経叢
１５	頭頸部・体幹１：頭部の骨
１６	頭頸部・体幹２：椎骨
１７	頭頸部・体幹３：胸郭の骨
１８	頭頸部・体幹４：頭頸部と体幹の関節
１９	頭頸部・体幹５：頭頸部の筋
２０	頭頸部・体幹６：体幹の筋（胸部の筋）
２１	頭頸部・体幹７：体幹の筋（腹部・骨盤底の筋）
２２	頭頸部・体幹８：体幹の筋背部（背部の筋）
２３	人体の構造Ⅰまとめ

履修の認定

期末筆記試験および出席率・授業態度により総合的に評価する。

教科書

１．プロメテウス解剖学アトラス コンパクト版 第２版：坂井建雄 著、医学書院 2019 年

２．解剖学（PT・OT ビジュアルテキスト専門基礎）：町田志樹 著、羊土社　2018 年

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
（必）人体の構造Ⅱ	3	1	後期	４５	（獣医学博士）大迫　洋治＜非常勤講師＞ 高知大学准教授　医学部解剖学講座

授業概要

本科目では中枢神経系の構造について学習し、運動および感覚情報がどのように伝導されるか理解する。さらに、内臓についても学習する。構造物の名称を正確に覚えることはもちろんのこと、それぞれの構造物が機能を発揮するために都合のよい形に分化し、互いに協調し合って、体全体の機能を担っていることを理解する。

学習目標

１．脳と脊髄の構造を理解し、運動と感覚の伝導路について説明できる。
２．心臓の構造について理解する。
３．主な血管およびリンパ管の走行を図示でき、血液とリンパ液の流れを説明できる。
４．肺の構造と呼吸運動について説明できる。
５．消化管の位置・形態・機能について簡単な絵を描いて説明できる。
６．腎臓の構造および尿路について説明できる。
７．受精から誕生まで、ヒトの発生についての概略を説明できる。

授業計画

回	主　　題
1	神経系１：灰白質・白質・脳室・髄膜
2	神経系２：大脳１
3	神経系３：大脳２
4	神経系４：小脳・脳幹
5	神経系５：脊髄の下行路１
6	神経系６：脊髄の下行路２
7	神経系７：脊髄上行路（感覚の分類）
8	感覚器系１：視覚器
9	感覚器系２：平衡聴覚器
１０	循環器系１：肺循環と体循環・リンパ・血管の構造
１１	循環器系２：心臓１
１２	循環器系３：心臓２
１３	循環器系４：全身の動脈・脳底の動脈
１４	循環器系５：全身の静脈
１５	呼吸器系１：鼻・喉頭・気管・気管支
１６	呼吸器系２：肺
１７	消化器系１：口腔・舌・歯・咽頭・食道
１８	消化器系２：胃・小腸・大腸
１９	消化器系３：肝臓・膵臓
２０	泌尿器系１：腎臓
２１	泌尿器系２：尿管・膀胱・尿道
２２	生殖器系１：男性生殖器
２３	生殖器系２：女性生殖器
２４	人体の構造 II まとめ

履修の認定

期末筆記試験および出席率・授業態度により総合的に評価する。

教科書

１．プロメテウス解剖学アトラス コンパクト版 第２版：坂井建雄 著、医学書院 2019 年

２．解剖学（PT・OT ビジュアルテキスト専門基礎）：町田志樹 著、羊土社　2018 年

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
（必）人体の機能Ⅰ	3	1	前期	４５	（医博）椛　秀人　＜非常勤講師＞ 高知大学名誉教授

授業概要

近代生理学の生みの親と言われるクロード・ベルナールは、広範な研究から「内部環境の恒常性」の基本概念に到達した。細胞は生命活動の単位であり、それが正常に機能するためには細胞を取り巻く環境、すなわち細胞外液が一定の状態に維持される必要がある。細胞外液は細胞が生存するための環境であり、内部環境と呼ばれている。内部環境の組成の調節には複雑な機構が働いており、それぞれの細胞はそれらの細胞内組成を調節する独自の機構を保持している。キャノンは、この内部環境の恒常性をホメオスタシスと呼んだ。

健常者では、身体内外の環境の変化に応じて、体内環境の恒常性（ホメオスタシス）が維持されている。病気とはこの恒常性が乱れた状態にほかならない。ホメオスタシスは動的な平衡状態を意味しており、生体にはフィードバック機構、適応など、ホメオスタシスの維持にかかわる巧妙な仕組みが存在している。生理学の主な研究テーマの一つは、ホメオスタシスがどのようなメカニズムで発現維持されているかについて解明することにある。

人体の機能は、二つの群に大別される。血液循環、呼吸、消化吸収、内分泌などのように生命を維持する働きと、神経、感覚、運動などのように生命を活用する働きである。前者を植物性機能、後者を動物性機能と呼ぶ。人体の機能Ⅰではリハビリテーションに深く関わる動物性機能について学修する。近年、脳卒中によって手足が麻痺しても、リハビリテーションによって運動機能が回復するメカニズムが神経可塑性で説明できるようになった。この神経可塑性のメカニズムについても理解を深める。

学習目標

1. 内部環境とは何か、また、ホメオスタシスとどのような関係にあるかについて説明できる。
2. 活動電位とシナプス電位（興奮性・抑制性）の発生機序を説明できる。
3. シナプス可塑性の代表例としてのテタヌス後増強、長期増強、長期抑圧を説明できる。
4. 骨格筋における興奮収縮連関を説明できる。
5. 自律神経の機能をシグナル伝達の視点から説明できる。
6. 感覚（体性感覚、内臓感覚、聴覚、平衡感覚、視覚、嗅覚、味覚）の受容の仕組みと伝導路を説明できる。
7. 下行性伝導路外側系、下行性伝導路内側系の起始細胞、投射経路、脊髄の終止部位をあげ、機能の違いについて説明できる。
8. 脊髄反射（伸張反射、逆伸張反射、屈曲反射）を説明できる。
9. 伸張反射におけるα-γ連関の意義を説明できる。
10. 随意運動の制御系を説明できる。
11. 大脳基底核（線条体、淡蒼球）の線維連絡と機能を説明できる。
12. 小脳系の線維連絡と機能を説明できる。
13. 大脳皮質連合野の細胞構築学的特徴を説明できる。
14. 大脳皮質連合野の損傷による高次機能障害（３種類）を列挙し、その内容を説明できる。
15. 頭頂連合野、側頭連合野および前頭連合野の機能を説明できる。
16. 発達脳（大脳皮質視覚野細胞）の可塑性の特徴を説明できる。
17. 下記の用語を用い学習と記憶について説明できる。

    非連合学習　連合学習　手続き的記憶　記述的記憶　短期記憶　長期記憶　固定化

    再固定化　健忘症患者　海馬　シナプスの可塑性
18. 情動に伴う諸現象について説明できる。
19. 覚醒系と催眠系について説明できる。

授業計画

回	主　　題
1	序論：生体機能系、内部環境、ホメオスタシス、制御機構
2	神経の基本的機能：静止膜電位、活動電位、興奮の伝導、シナプス伝達とその可塑性
3	筋肉の基本的機能：筋収縮の仕組み、興奮収縮連関、骨格筋と平滑筋・心筋との比較
4	神経系の機能/概説：中枢神経系、末梢神経系（体性神経系と自律神経系）
5	感覚機能（1）：総論
6	感覚機能（2）：体性感覚と内臓感覚
7	感覚機能（3）：聴覚
8	感覚機能（4）：平衡感覚
9	感覚機能（5）：視覚（1）
１０	感覚機能（6）：視覚（2）
１１	感覚機能（7）：味覚
１２	感覚機能（8）：嗅覚
１３	運動機能（1）：筋と運動ニューロン、脊髄
１４	運動機能（2）：脊髄、脳幹
１５	運動機能（3）：大脳皮質
１６	運動機能（4）：大脳基底核、小脳
１７	大脳皮質連合野（1）：大脳皮質連合野の機能総論、頭頂連合野の機能
１８	大脳皮質連合野（2）：側頭連合野の機能、前頭連合野の機能
１９	高次神経機能（1）：発達脳の可塑性、脳の部分損傷後の神経回路の再構成
２０	高次神経機能（2）：学習と記憶
２１	高次神経機能（3）：学習と記憶の細胞機構
２２	高次神経機能（4）：情動、覚醒と睡眠

履修の認定

筆答試験により行う。

教科書

1. シンプル生理学　改訂第８版　貴邑　冨久子、根来　英雄　著　南江堂　2021

参考書

1. 標準生理学　第９版　本間研一　監修　医学書院　2019
2. 第４版　カラー図解　人体の正常構造と機能　坂井　建雄、河原　克雅　編集　日本医事新報社　2021

授業科目	単位数	年次	学期	時間数	担当教員
（必）人体の機能Ⅱ	3	1	後期	45	（医博）椛　秀人＜非常勤講師＞ 高知大学名誉教授

授業概要

植物性機能が多くの分子群や細胞群の働きと、その相互作用によって、さらにはそれらが作り上げる器官や個体レベルの働きによってどのように統御され、全体としてホメオスタシスを維持しているかについて学修する。

学習目標

1. ホルモンを構造と作用機序から分類できる。
2. ホルモン分泌の調節機構（ネガティブフィードバック）の例をあげて説明できる。
3. 視床下部ホルモン・下垂体ホルモンの名称、作用、相互関係を説明できる。
4. 甲状腺ホルモンの産生・作用・分泌調節機構を説明できる。
5. 副甲状腺ホルモンとカルシウム代謝（ビタミンDとカルシトニンを含む）を説明できる。
6. 副腎皮質ホルモン、アルドステロンの作用と分泌調節機構を説明できる。
7. カテコールアミンの合成・代謝経路と作用を説明できる。
8. インスリン、グルカゴンの作用と分泌調節機構を説明できる。
9. 運動、食後、絶食時の血糖値の恒常性維持機構を説明できる。
10. インスリン欠乏が原因で昏睡・死に至る過程を説明できる。
11. 糖尿病の成因を分類し説明できる。
12. 内生殖器と外生殖器の分化過程を説明できる。
13. 性周期発現の機序を説明できる。
14. 精子形成の過程を説明できる。
15. 授乳のメカニズムを説明できる。
16. 栄養補給系の全体像を説明できる。
17. 唾液・胃液・膵液・胆汁の組成と分泌調節機構を説明できる。
18. 小腸運動の特徴を説明できる。
19. 小腸粘膜細胞の刷子縁膜における糖質の消化吸収機構を説明できる。
20. 体循環と肺循環を説明できる。
21. 心筋細胞の電気現象と刺激伝導を説明できる。
22. 心周期に伴う血行動態を説明できる。
23. 血圧調節のメカニズムを説明できる。
24. 毛細血管領域における物質交換の機序を説明できる。
25. リンパ管とリンパ節の構造と機能を説明できる。
26. 呼吸運動のメカニズムを説明できる。
27. 呼吸中枢を介する呼吸調節のメカニズムを説明できる。
28. 肺の換気血流比を説明できる。
29. 血液における酸素・二酸化炭素の運搬の仕組みを説明できる。
30. 呼吸と酸塩基平衡の関連を説明できる。
31. 腎糸球体におけるろ過の機序を説明できる。
32. 尿細管各部における再吸収・分泌機構および尿の濃縮機序を説明できる。
33. 浸透圧と体液量の調節機構を概説できる。
34. 腎に作用するホルモン・血管作動性物質の作用を説明できる。
35. 排尿のメカニズムを説明できる。
36. 体温調節のセットポイントを説明できる。セットポイントと核心温の負のフィードバック調節との関係を説明できる。
37. 発熱の機序を説明できる。

授業計画

回	主　　題
1	内分泌（1）：内分泌総論
2	内分泌（2）：視床下部-下垂体系
3	内分泌（3）：甲状腺
4	内分泌（4）：カルシウム代謝
5	内分泌（5）：副腎
6	内分泌（6）：膵島
7	生殖（1）：生殖腺・脳の性分化、思春期、女性の生殖機能
8	生殖（2）：男性の生殖機能、妊娠・分娩・授乳
9	消化と吸収（1）：消化管の機能の概要、唾液、胃液
１０	消化と吸収（2）：膵液、胆汁、運動
１１	消化と吸収（3）：消化、吸収
１２	血液（1）：血球
１３	血液（2）：止血、血液型
１４	循環（1）：心臓
１５	循環（2）：心電図
１６	循環（3）：心周期、血液循環
１７	循環（4）：循環系の調節
１８	呼吸（1）：呼吸のメカニズム
１９	呼吸（2）：ガス交換、呼吸調節
２０	腎臓（1）：尿生成
２１	腎臓（2）：尿の濃縮、水・電解質・pH の調節
２２	体温とその調節

履修の認定

筆答試験により行う。

教科書

1. シンプル生理学　改訂第８版　貴邑　冨久子、根来　英雄　著　南江堂　2021

参考書

1. 標準生理学　第９版　本間研一　監修　医学書院　2019
2. 第４版　カラー図解　人体の正常構造と機能　坂井　建雄、河原　克雅　編集　日本医事新報社　2021

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　　当　　教　　員
（必）人体の構造機能演習	1	1	後期	１５	（医博）奥田　教宏 ＜本校講師＞ 理学療法士

授業概要

本科目は、人体の機能Ⅱで取り上げられる内分泌やホルモンの働きについて、人体の構造Ⅱで行う消化器系の解剖学についてより理解を促す目的で開講する。

講義内容は、内分泌系の名称や機能をはじめとして、消化器系の機能（消化と吸収）、呼吸の生理、血液・循環の生理について思考力をつけていく。人体の構造と機能を理解することで、理学療法士にとって必要な生理学・解剖学の基礎知識を身につけ、2年次以降の専門科目が理解しやすいよう講義をすすめていく。

学習目標

1．授業計画で取り上げられた内容について理解すること。
2．講義で取り上げられた内容について説明できるようになること。

授業計画

回	主　　題
1	内分泌系の機能①
2	内分泌系の機能②
3	消化と吸収①
4	消化と吸収②
5	中間試験
6	循環の生理①
7	循環の生理②
8	呼吸の生理
9	単位認定試験

履修の認定

筆記試験の成績

成績は、中間試験 50%と単位認定試験 50%の合計点とする。

教科書

1．シンプル生理学　貴邑冨久子・他　南江堂

参考書

1．PT・OT ビジュアルテキスト解剖学　町田志樹　羊土社
2．プロメテウス解剖学アトラス コンパクト版　坂井建雄　医学書院

授業科目	単位数	年次	学期	時間数	担当教員
（必）脳科学概論	2	1	後期	３０	（心理学博士）繁桝 博昭＜非常勤講師＞ 高知工科大学教授　他

授業概要

脳科学に関連した知見はマスコミにもよく取り上げられ、タイトルに脳の付いた書籍も多数平積みで売られている。しかし、テレビや本などでよく聞かれる話には拡大解釈された俗説も少なくない。本講義では脳のはたらきを正しく理解することを目指し、脳や神経細胞の構造、機能の基本的特性を学ぶ。また、知覚、認知、運動など、私たちの生活に関わる脳の各機能の処理過程についても学ぶ。さらに、脳・機械インタフェースなど、脳に関する最新の研究トピックスも適宜紹介する。

学習目標

１．脳や神経細胞の構造と機能の基本的特性を理解し、脳についての正しい知識を身につける。
２．脳活動の測定方法について理解する。
３．知覚、認知、運動の脳内処理過程について理解する。

授業計画

回	主題
1	神経細胞と神経ネットワーク
2	脳の構造と機能
3	脳活動計測法
4	視覚１：初期視覚の処理過程
5	視覚２：物体認知と高次視覚の処理過程
6	注意と意識
7	聴覚, 嗅覚, 味覚
8	体性感覚, 平衡覚
9	記憶と言語
１０	脳－機械インタフェース
１１	運動１：運動の制御
１２	運動２：運動の学習
１３	運動３：運動の記憶
１４	期末試験
１５	期末試験の解説

履修の認定

筆記試験による。

教科書

毎回プリントを配布する。

参考書

１．イラストレクチャー認知神経科学　村上郁也編　オーム社
２．リハビリテーションのための脳・神経科学入門　森岡　周著　協同医書出版社
３．リハビリテーションのための認知神経科学入門　森岡　周著　協同医書出版社

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　　当　　教　　員
（必）人間発達学	2	1	前期	３０	（医博）宮本　謙三＜本校講師＞ 理学療法士

授業概要

人間の生涯にわたる発達的変化を心理、運動、形態などの面から概観する。発達心理学の領域ではエリクソンの発達理論を軸に展開し、運動発達や形態的変化については乳幼児期を中心に詳しく講義する。また、理学療法士や作業療法士に必要な発達検査や発達障害についても触れる。

学習目標

１．乳幼児期における身体の形態的変化を説明できる。
２．乳幼児期の運動発達的変化と神経系の成熟過程とを関連づけて説明できる。
３．発達に影響を及ぼす要因をあげることができる。
４．代表的な発達理論を説明できる。

授業計画

回	主　　題
1	人類の進化、遺伝と環境、成熟と学習
2	発達の原則（順序性／連続性／方向性／異速性）
3	発達理論（エリクソン）
4	発達理論（ピアジェ／その他）
5	形態発達／生理的発達
6	運動発達１（運動発達の原則）
7	運動発達２（乳幼児期）
8	運動発達３（姿勢反射）
9	認知発達１（知覚）
１０	認知発達２（言語）
１１	社会性の発達（社会性／情緒／道徳性）
１２	発達検査（知的発達／運動発達）
１３	青年期の特徴／老年期の特徴
１４	発達障害
１５	定期試験

履修の認定

試験成績に出席状況や学習態度を総合して認定する。

教科書

１．人間発達学テキスト　細田多穂監修　南江堂

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間割	担　当　教　員
（必）運動学Ⅰ （総論・下肢）	2	1	前期	３０	（教育学修士）井上　佳和＜本校講師＞ 理学療法士

授業概要

運動学とは、身体の運動に関する仕組みを研究する学問であり、人体がおこなう種々の動作を運動として把握し、分析する学問である。この科目では、その理解のための基礎となる力学、身体構造について学び、後半では下肢の運動学的事項を学んでいく。１年生後期に履修する運動学Ⅱとあわせることで四肢・体幹を含む身体各部の運動学的知識を深めていく。

学習目標

１．運動に関する原理・理論を理解する。
２．運動に関する身体の構造と機能の関係を理解する。

授業計画

回	主　　題
1	運動学総論　運動とは？
2	身体各部の名称
3	滑膜関節の構造　運動の面と軸
4	身体関節運動方向の名称
5	姿勢の分類　重心位置と姿勢の安定性
6	筋収縮のメカニズム　筋収縮の様態
7	てこ
8	中間試験
9	運動の中枢性機構
１０	下肢帯と股関節の運動１
１１	下肢帯と股関節の運動２
１２	下肢帯と股関節の運動３
１３	膝関節の運動１
１４	膝関節の運動２
１５	定期試験

履修の認定

定期試験を 50%、中間試験 50%として評定をおこなう。

教科書

１．基礎運動学　第６版　中村隆一・齋藤　宏・長崎　浩著　医歯薬出版

参考書

１．エッセンシャルキネシオロジー　Donald A.Neumann　弓岡光徳ら訳　南江堂

授業科目	単位数	年次	学期	時間数	担当教員
（必）運動学Ⅱ （上肢・体幹）	２	１	後期	３０	（教育学修士）井上　佳和＜本校講師＞ 理学療法士

授業概要

運動学とは、身体の運動に関する仕組みを研究する学問であり、人体がおこなう種々の動作を運動として把握し、分析する学問である。この科目は１年生前期に履修する運動学Ⅰとあわせることで身体各部の運動についての運動学的知識を深めていく。

学習目標

１．運動に関する原理・理論を理解する。
２．運動に関する身体の構造と機能の関係を理解する。

授業計画

回	主題
1	足関節の運動１
2	足関節の運動２
3	足関節の運動３
4	体幹の運動１
5	体幹の運動２
6	体幹の運動３
7	中間試験
8	上肢帯と肩関節の運動１
9	上肢帯と肩関節の運動２
１０	上肢帯と肩関節の運動３
１１	肘関節と前腕の運動１
１２	肘関節と前腕の運動２
１３	手関節と手指の運動１
１４	手関節と手指の運動２
１５	定期試験

履修の認定

定期試験を 50%、中間試験を 50%として評定を行う。

教科書

１．基礎運動学　第６版　中村隆一・齋藤　宏・長崎　浩著　医歯薬出版

参考書

１．エッセンシャルキネシオロジー　Donald A.Neumann　弓岡光徳ら訳　南江堂

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
（必）運動学実習	1	1	後期	３０	（医科学修士）近藤　寛＜本校講師＞ 理学療法士

授業概要

この科目では、運動学Ⅰ・Ⅱについて理解を促し、より実習形式で復習することにより運動学の知識を定着させることを目的とする。講義の前半は、各関節の構造と機能を中心に学習する。後半は、歩行動作についての専門的な用語を学び、正常歩行についての運動学的事項や異常歩行についての理解を深め、理学療法士として必要な基礎知識に関する講義を行う。

学習目標

１．各関節運動に関する身体の構造と機能が理解できる。
２．各関節の骨・関節・筋の触察できる。
３．歩行や各種の身体運動について理解できる。

授業計画

回	主　　題
1	運動方向について
2	股関節の運動　①
3	股関節の運動　②
4	膝関節の運動
5	足関節の運動
6	肩関節・肩甲帯の運動　①
7	肩関節・肩甲帯の運動　②
8	肘関節の運動
9	手関節の運動
１０	各関節運動のまとめ（実技）
１１	歩行の運動学(1)
１２	歩行の運動学(2)
１３	歩行の運動学(3)
１４	歩行の運動学のまとめ（実技）
１５	単位認定試験

履修の認定

定期試験・定期試験に実施する確認テスト・課題レポート・出席状況・受講態度・その他、授業に関わる全てを評価対象とする。

教科書

１．基礎運動学　第６版　中村隆一・他 著　医歯薬出版　2003

参考書

１．津山直一：新・徒手筋力検査法　第９版,　協同医書出版社：2014
２．河上敬介：骨格筋の形と触察法　第２版,　大峰閣：2013
３．エッセンシャル・キネシオロジー 機能的運動学の基礎と臨床　Donald A.Neuman　南江堂　2015

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
（必）体表解剖学	1	2	前期	３０	（教育学修士）岡部　孝生＜本校講師＞ 理学療法士

授業概要

1 年次において人体の構造Ⅰ・Ⅱや人体の構造機能入門、人体の構造機能演習などで人体の構造（解剖学）について学習した。本講義はそれらを基盤とし、1 年次に得た人体の構造に関する知識を理解に深めるものである。理学療法士は患者に対して非侵襲的に（皮膚の上から）治療していく職業である。そのため机上の知識だけでなく、皮膚の上から各組織を触察できる能力が不可欠であり、それについて学ぶのが体表解剖学である。本講義では理学療法士として必要な骨・筋・神経・動脈などの触察の必要性と、基本的な触察技術を身につけることを目的としている。

学習目標

１．体表解剖学の必要性を知る。
２．基本的な触察技術を身につける。
３．体表解剖学を通して、身体構造の 3 次元的イメージを身につける。

授業計画

回	主　　題
1	解剖学概論、骨触察の概論（代表的骨指標）
2	骨触察の各論 1（肩甲骨）
3	骨触察の各論 2（肩甲骨）
4	骨触察の各論 3（肩甲骨と鎖骨）
5	筋触察の各論 1（肩甲帯筋群 1）
6	筋触察の各論 2（肩甲帯筋群 2）
7	骨触察の各論 4（上肢）
8	筋触察の各論 3（上腕屈筋群）
9	筋触察の各論 4（前腕屈筋群）
１０	骨触察の各論 5（下肢）
１１	筋触察の各論 5（大腿後面筋群）
１２	筋触察の各論 6（下腿前面筋群）
１３	神経・動脈の各論 1（上肢・体幹）
１４	神経・動脈の各論 2（下肢・体幹）
１５	定期試験

履修の認定

実技試験（80%）、受講態度（20%）

教科書

１．骨格筋の形と触察法　第 2 版　河上敬介、磯貝香(著)　大峰閣　2013

その他

大型バスタオル 1 枚、水性（顔料）マーカー数色、ウェットティッシュを準備してください。

参考書

１．運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 第 2 版 林典雄 メジカルビュー社 2011
２．運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 第 2 版 林典雄 メジカルビュー社 2012
３．触診機能解剖カラーアトラス上　竹井仁　文光堂　2008
４．触診機能解剖カラーアトラス下　竹井仁　文光堂　2008
５．図解 四肢と脊椎の診かた STANLEEY HOPPENFELD 野島元雄（訳）　医歯薬出版　1984
６．筋骨格系の触診マニュアル　丸山仁司（監修）ガイアブックス　2011
７．運動・からだ図解 筋と骨格の触診術の基本　藤縄理　マイナビブックス　2013

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
（必）運動生理学	2	2	後期	３０	（保健学博士）宅間　豊＜本校講師＞ 理学療法士

授業概要

運動生理学は「運動によって身体にどのような変化が生ずるのか、その現象と仕組みを研究する学問」と言われている。一方、Physiotherapy の「Physio」は生理学との関係を表す接頭語であり、Physiotherapy は運動等の物理的刺激の適用により生体の生理的反応を期待する治療と言われている。よって、運動生理学は理学療法士にとって基盤となる重要な学問の一つである。そこで、この授業では運動に関係する身体の各器管系とそれらの運動時の反応を中心に学習する。

学習目標

身体運動に関与する骨格筋系、神経系、呼吸・循環・代謝系のメカニズムを理解できる。

授業計画

回	主　　題
1	筋収縮とエネルギー供給系１
2	筋収縮とエネルギー供給系２
3	筋線維の種類とその特徴１
4	筋線維の種類とその特徴２
5	神経系の役割１
6	神経系の役割２
7	神経系の役割３
8	筋の収縮様式と筋力１
9	筋の収縮様式と筋力２
１０	中間試験
１１	運動と循環１
１２	運動と循環２
１３	運動と呼吸１
１４	運動と呼吸２
１５	定期試験

履修の認定

中間および定期試験成績により認定する。

教科書

１．入門運動生理学　勝田茂（編）　杏林書院
２．配付プリント

参考書

１．図説・運動の仕組みと応用　中野昭一（編）　医歯薬出版
２．図説・運動生化学入門　伊藤郎（編著）　医歯薬出版

授 業 科 目	単位 数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
（必）神経生理学	2	2	前期	３０	（教育学修士）岡部　孝生＜本校講師＞ 理学療法士

授業概要

1 年次に履修した“人体の構造”と“人体の機能”を基盤に、理学療法と関連性の深い神経生理学の基本的領域を復習する。同時に臨床症状の神経学的理解を深め、理学療法への応用についても言及する。

学習目標

１．理学療法士として、神経生理学を学ぶ必要性を感じる。
２．神経系の構造と機能の理解を深める。
３．臨床症状と神経生理学の繋がりを考える。

授業計画

回	主　　題
1	神経概論、中枢神経概論
2	大脳 1
3	大脳 2
4	大脳 3
5	間脳
6	脳幹
7	小脳、脊髄
8	脳画像のみかた（基礎）
9	末梢神経概論
１０	脳神経 1
１１	脳神経 2
１２	脳神経 3
１３	脊髄神経、自律神経
１４	まとめ
１５	定期試験

履修の認定

筆記試験（90%）、受講態度（10%）

教科書

１．病気がみえる vol.7 脳・神経 第 2 版　医療情報科学研究所（編）　メディックメディア 2017
２．PT・OT ビジュアルテキスト　リハビリテーション基礎評価学　第 2 版　潮見泰藏・下田信明　羊土社　2019

参考書

１．PT・OT ビジュアルテキスト　解剖学　第 1 版　坂井建雄、町田志樹　羊土社　2018
２．シンプル生理学 改訂第 7 版　貴邑冨久子ほか　南江堂　2016
３．中枢神経系の理解　第 3 版　杉浦和朗（著）　医歯薬出版　1998
４．ベッドサイドの神経の診かた 改訂 17 版　田崎義昭ほか　南江堂　2010
５．ブレインブック 見える脳　養老孟司（監訳）南江堂　2012
６．カラー人体解剖学 構造と機能 ミクロからマクロまで　井上貴央（監訳）　西村書店　2003

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
（必）病理学	2	1	後期	３０	高橋　保＜非常勤講師＞ 高知学園大学特任講師 （医療衛生学科　医療検査専攻）

授業概要

病理学は、種々の疾患あるいは病気の本態を主として形態学的立場から明らかにし論じるものである。講義により疾患の形態学的変化を中心に、機能面にも考慮しながら疾患の概念や病態を理解するとともに、病変と臨床事項との関連が考慮できるように指導する。

学習目標

1．病理学総論は、各器官系・臓器にみられる種々の疾患の基礎的理解に極めて重要であり、要点を把握するよう心掛ける。
2．病理学各論としての各臓器や器官系における主要な疾患は、総論の中で適宜学習する。

授業計画

回	主　　題
1	病因
2	細胞・組織の障害と修復
3	循 環 障 害
4	〃
5	炎 症 と 免 疫
6	〃
7	感 染 症
8	〃
9	代 謝 障 害
１０	〃
１１	先天異常と遺伝子異常
１２	〃
１３	腫瘍総論
１４	〃
１５	定期試験

履修の認定

定期試験による。

教科書

教科書指定はなし　　プリント等資料配布

参考書

1．系統看護学講座　専門基礎分野　病理学　　大橋健一ほか（編）　医学書院
2．図解入門　よくわかる　病理学の基本としくみ　田村浩一（著）　秀和システム

授業科目	単位数	年次	学期	時間数	担当教員
（必）病理学演習	1	1	後期	１５	（学術修士）宮本　祥子＜本校講師＞ 理学療法士

授業概要

専門基礎分野である病理学の学習内容のポイントを演習形式で復習することにより、理解を深め知識の定着を図ることを目的とする。

病理学は種々の疾患について、概念や病態理解の基盤となる学問である。そのため理学療法士に欠かせない学問である。本科目では、専門基礎分野の病理学で扱われる内容のうち、より重要と思われるものにポイントを絞って学習していく。なお、病理学は国家試験でも出題数の多い分野であるため、その出題範囲も意識しながら授業内容を構成する。

学習目標

１．病理学は何を扱う学問領域であるか理解できる。
２．授業で取り上げられた疾患や病気の本態の基礎について理解できる。
３．授業で取り上げられた疾患や病気の本態について、理解したことが説明できる。

授業計画

回	主題
1	循環障害
2	炎症
3	免疫
4	感染症
5	先天異常と遺伝子異常
6	腫瘍
7	代謝障害
8	定期試験

履修の認定

筆記試験 90%、出席状況と受講状況（課題の提出を含む）10%

教科書

毎回担当教員が作成したプリントを配布する。

注意事項

本講義は、開講回数が全８回と少ないので欠席しないこと。
「病理学」の授業で配布された資料を毎時間持参すること。

参考書

１．系統看護学講座 専門基礎分野　病理学　大橋健一　医学書院　2021
２．カラーで学べる病理学　第５版　渡辺照男 ヌーヴェルヒロカワ　2019

授業科目	単位数	年次	学期	時間数	担当教員
(必) 内科学	2	2	前期	30	高知大学医学部　内科学講座スタッフ 他

授業概要

理学療法の対象は、運動器および神経系の障害から呼吸循環器系、代謝系、泌尿器系などの内部障害にまで急速に拡大している。このようなリハビリテーション医療の拡大を鑑みて、内科系疾患の病態、診断、治療を講義しセラピストの必要な知識を教授する。

学習目標

1．基本的な内科疾患を理解できる。

2．内科の基本的な診断と治療を理解できる。

授業計画

回	主題
1	総　論
2	呼吸器1
3	呼吸器2
4	血液1
5	血液2
6	腎基礎・一次性・二次性
7	腎不全・水電解質・酸・塩基
8	代謝総論・糖尿病
9	内分泌全般
10	代謝・脂質異常症・その他
11	消化管
12	肝疾患
13	胆　膵
14	免　疫
15	定期試験

履修の認定

筆記試験による。

教科書

1．ナースの内科学　改訂10版　奈良　信雄（編）　中外医学社

授業科目	単位数	年次	学期	時間数	担当教員
（必）整形外科学	2	2	前期	３０	（保健学博士）宅間　豊＜本校講師＞ 理学療法士 他

授業概要

整形外科学は、骨・関節・靭帯・腱・筋肉といった運動に関与する器官（motor organ）の疾患や外傷を扱う医学であり、変形性関節症や骨折がその代表である。

リハビリテーション医療における対象者は、運動器に機能構造障害を有している場合が多く、それが一因となり活動制限や参加制約に陥っている。セラピストがこのような対象者の病状を理解し、障害像を把握した上で理学療法や作業療法を適切に展開するためには整形外科学の知識は不可欠となる。よって、リハビリテーション医療に直接携わる理学療法士と作業療法士に必要な整形外科学を修得するための講義を行う。

学習目標

１．基本的な整形外科疾患を理解できる。
２．整形外科の基本的な診断法と治療法を理解できる。

授業計画

回	主題
1	関節リウマチ１
2	関節リウマチ２
3	変形性関節症１
4	変形性関節症２
5	骨粗鬆症
6	中間試験
7	頚椎・腰椎疾患１
8	頚椎・腰椎疾患２
9	骨折１
１０	骨折２
１１	関節損傷１
１２	関節損傷２
１３	末梢神経損傷１
１４	末梢神経損傷２
１５	定期試験

履修の認定

中間および定期試験成績により認定する。

教科書

１．標準整形外科学　石井清一／平澤泰介（監）　医学書院

参考書

１．リハビリテーション整形外科学　大谷清（著）　医学書院
２．Visual NAVI!　整形外科学　岡田恭司（著）　メディカルビュー社

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
（必）精神医学	2	2	前期	３０	（医博）藤田　博一＜非常勤講師＞ 高知大学医学部 附属医学教育創造センター　教授 他

授業概要

精神医学は精神障害を取り扱う医学の分野である。精神医学の症状、所見、経過、予後、治療に対する反応性などを統合して、障害の解明と合理的な治療・予防症の発達を目指すものである。

学習目標

１．精神現象の様々な異常を理解し説明できる。
２．各疾患を理解し説明できる。

授業計画

回	主　　題
1	第1章　精神医学とは
	第2章　脳科学と精神医学
2	第3章　精神機能とその異常
	第4章　精神発達
	第5章　精神医学的診察と診断
	第6章　精神科治療学
	第7章　コンサルテーション・リエゾン精神医学
3	第8章　精神医療と社会
4	第9章　発達障害（神経発達症群）およびその他の児童期の精神疾患
	第10章　統合失調症
	第11章　うつ病
5	第12章　双極性障害
6	第13章　不安症・解離症・身体症状症
7	第14章　強迫症
8	第15章　心的外傷およびストレス因関連障害
9	第16章　摂食障害
	第17章　睡眠-覚醒障害
10	第18章　物質関連障害および嗜癖性障害
11	第19章　認知症
12	第20章　てんかん
13	第21章　パーソナリティ障害
	第22章　精神科で対応することのある他の疾患および状態
14	第23章　精神疾患の原因となりうる医学疾患・薬剤・化学物質
15	定期試験

履修の認定

定期試験、提出物、出席状況、授業態度

教科書

１．標準精神医学／野村総一郎他／　医学書院 第８版

参考書

１．標準理学療法学・作業療法学　精神医学　医学書院

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
（必）小児科学	2	2	後期	３０	（医博）島崎　洋成＜非常勤講師＞ 田野病院　小児科医師

授業概要

小児科学全般について網羅的にまとめて学習する。

学習目標

１．小児科の基本的な疾患を理解する。
２．小児に特徴的な成長・発達について理解する。

授業計画

回	主　　題
1	小児の成長・発達
2	感染症
3	先天奇形・染色体異常
4	免疫・アレルギー疾患・膠原病
5	消化器疾患
6	神経疾患（重症心身障害児 etc） 1
7	〃　　〃　　2
8	筋疾患・骨・関節疾患
9	血液疾患
１０	新生児・未熟児疾患
１１	循環器疾患
１２	呼吸器疾患
１３	内分泌・先天代謝異常
１４	腎・泌尿器疾患
１５	定期試験

履修の認定

筆記試験による。

教科書

１．標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野小児科学　　編集　冨田　豊　医学書院

授業科目	単位数	年次	学期	時間数	担当教員
（必）神経内科学	2	2	後期	３０	（医博）大崎　康史＜非常勤講師＞ 高知大学講師　医学部 脳神経内科学講座　他

授業概要

神経学は一般に難解な学問という印象がある。しかし、解剖学と生理学を正しく理解すれば、知識の整理は極めて論理的に行うことができる。

本講義では、まず神経系の解剖と生理を学びながら神経疾患の性質診断と部位診断という基本的アプローチを身につける。その後、脳血管障害、変性疾患、感染性疾患などの各論の治療法・予後についての理解を深める。生きた材料を見るために、講義中に動画の使用が多いのも、神経内科学の特徴である。

高齢化社会である我が国において、神経内科領域の重要性はますます増えており、社会に出た後にも有用であるように図られている。

学習目標

１．神経系の解剖を理解する。
２．神経疾患診断に到るプロセスを理解する。
３．神経学的所見の取り方の基礎、各種検査法を理解する。
４．神経疾患の主要症状の発生機序、症状内容、症状をきたす疾患について理解する。
５．脳血管障害、感染症、脱髄疾患など各疾患についての病因病理、症状と経路、検査、診断、治療と予後について理解する。

授業計画

回	主題	回	主題
1	神経内科学総論	１１	MS, NMO, ADEM
2	臨床神経解剖学・画像検査	１２	不整脈
3	神経生理学・検査	１３	神経筋接合部疾患
4	脳血管障害・総論	１４	細菌・ウイルス・真菌感染症
5	脳血管障害・各論	１５	高血圧
6	筋萎縮性側索硬化症	１６	筋肉疾患
7	パーキンソン病など	１７	虚血性心疾患
8	小脳変性症・痙性対麻痺	１８	末梢神経障害
9	認知機能検査と認知症	１９	弁膜症・心筋症
１０	中毒・代謝性疾患	２０	定期試験

履修の認定

筆記試験による。

教科書

１．ナースの内科学　改訂 10 版　奈良　信雄（編）　中外医学社

参考書

１．神経内科ハンドブック　鑑別診断と治療　第 5 版　水野　美邦　編集　医学書院
２．ベッドサイドの神経の診かた　改訂 18 版　田崎　義昭・斉藤　佳雄・坂井　文彦・濵田　潤一・飯塚　高浩　南山堂
３．Merritt's Neurology 14th edition Elan D. Louis, Stephan A. Mayer, James M Noble. Wolters Kluwer

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
（必）臨床心理学	2	2	後期	３０	(児童学修士)鹿間 淳史＜非常勤講師＞ 高知ハーモニーホスピタル 臨床心理士

授業概要

臨床心理学は、人間の心理的課題の分析、支援、予防にかかわり、個人がよりよい適応を目指し、より力を発揮できるよう寄り添い、支える事を目的とした実践的学問である。研究を中心活動とする心理学の他の分野と比べ、実践活動の中からまとめられた考えも重視し、実践、研究、専門活動のそれぞれを統合しながら発展しようとしている新しい分野でもある。授業では、心理的課題をいかにアセスメントし、仮説を導き、介入していくかについて、臨床心理学の知見と実践を並走させながら紹介する。

学習目標

１．　主要な心理検査法、心理療法について理解する。
２．　仮説を導くための理論などを理解する。
３．　心理的課題を抱え生きる困難と力を理解する。

授業計画

回	主　　題
1	リハビリテーションのための臨床心理学
2	心理アセスメントの方法と倫理
3	心理検査 1
4	心理検査 2
5	精神分析について
6	行動療法・認知行動療法
7	認知行動療法 2
8	人間の実現傾向を重視する（クライエント中心療法）
9	さまざまな心理療法的アプローチ 1（家族療法、森田療法）
１０	さまざまな心理療法的アプローチ 2（交流分析、内観療法）
１１	発達と心の問題
１２	認知機能のアセスメントと支援 1
１３	認知機能のアセスメントと支援 2
１４	臨床心理学の成り立ちと今後の展望
１５	定期試験

履修の認定

出席状況、授業への心理的参加、レポート、定期試験により評価し認定する

教科書

１．リハビリテーションのための臨床心理学　　牧瀬 英幹・著　南江堂　2021

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　　当　　教　　員
（必）整形外科学演習	1	2	前期	１５	（医博）奥田　教宏 ＜本校講師＞ 理学療法士

授業概要

必修科目である整形外科学で学ぶ運動器の疾患や外傷の病態、症状、治療などのポイントを復習することにより整形外科学の基本的知識の修得を補助する。講義内容は、臨床現場で関わることの多い、骨折・変形性関節症・肩関節疾患・関節内障・関節リウマチ・末梢神経損傷・腰椎疾患について講義していく。

学習目標

基本的な整形外科学の知識を修得することができる。

授業計画

回	主　　題
1	骨折
2	変形性関節症（膝・股関節）
3	肩関節周囲炎
4	関節損傷（靭帯・半月板・腱）
5	関節リウマチ
6	末梢神経損傷
7	腰椎疾患
8	単位認定試験

履修の認定

筆記試験の成績

教科書

１．標準整形外科学　松野丈夫・中村利孝総編集　医学書院
２．配布プリント

参考書

１．理学療法学　ゴールド・マスター・テキスト４　整形外科系理学療法学　柳澤健（編）MEDICAL VIEW
２．Visual NAVI　整形外科学　岡田恭司　MEDICAL VIEW
３．運動器障害理学療法学テキスト　細田多穂・他　南江堂

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
（必）神経内科学演習	1	2	後期	１５	（教育学修士）岡部　孝生＜本校講師＞ 理学療法士

授業概要

本講義は同時期に並行して開講されている「神経内科学」を補完する科目である。学生にとって神経内科疾患はイメージし難いことが多い。特に神経内科疾患に伴う「高次脳機能障害」はイメージしにくい上に、臨床で遭遇する頻度は少なくない。そこで本講義では、メディア教材を活用し、代表的な「高次脳機能障害」のイメージを学生に身に付けてもらう事を目的としている。またそれらの教材を通して、医療従事者としての心の成長も期待している。

学習目標

１．高次脳機能障害に対して興味を持ってもらう。
２．高次脳機能障害のイメージを身につける。
３．医療従事者としての倫理観を身に付ける。

授業計画

回	主　　題
1	高次脳機能障害について①　～概論～
2	高次脳機能障害について②　～失認～
3	高次脳機能障害について③　～失行～
4	高次脳機能障害について④　～失語～
5	高次脳機能障害について⑤　～認知症①～
6	高次脳機能障害について⑥　～認知症②～
7	高次脳機能障害について⑦　～まとめ～
8	定期試験

履修の認定

提出物（50%）、受講態度（50%）

教科書

１．病気がみえる vol.7 脳・神経 第 2 版　医療情報科学研究所（編）　メディックメディア 2017

参考書

１．ナースの内科学　改訂 9 版　越川昭三（編）　中外医学社　2013
２．PT・OT ビジュアルテキスト　リハビリテーション基礎評価学　第 2 版　潮見泰藏・下田信明　羊土社　2019
３．標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学　第 4 版　川平和美（編）　医学書院　2013
４．標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学　吉尾雅春，森岡周　医学書院　2013
５．高次脳機能障害マエストロシリーズ 1 基礎知識のエッセンス　三村將ほか　医歯薬出版 2006.
６．目でみる神経内科学　第 2 版　平井俊策ほか　医歯薬出版　2004
７．リハビリテーションのための神経内科学　第 2 版　安藤一也ほか　医歯薬出版　2003
８．ベッドサイドの神経の診かた　改訂 17 版　田崎義昭ほか　南江堂　2010

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　　当　　教　　員
（必）精神医学演習	1	2	前期	１５	（教育学修士）井上　佳和＜本校講師＞ 理学療法士

授業概要

理学療法士は主に身体面の障害に対してさまざまなアプローチを講じていく。しかし、精神と身体は一体のものであり、精神面の障害についての理解が深まることは、対象者をトータルに診ることにつながる。この科目では、精神医学領域の国家試験問題をベースとしたドリル形式の問題を理解していくことにより、同時期に開講される必修科目である精神医学の理解をより深めることを目的とする。

学習目標

１．精神科領域の各疾患の理解を深める。
２．本科目を通じて、精神医学の理解を深める。

授業計画

回	主　　題
1	意識障害、知能、記憶
2	知覚、思考の異常、妄想
3	アルコール依存、てんかん
4	神経症性障害と認知症を主とする器質性精神障害
5	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群
6	躁うつ病
7	統合失調症
8	試験

履修の認定

試験、出席状況・受講態度その他、授業に関わる全てを評価対象とする。

教科書

精神医学で用いるテキストを持参すること。
当日は資料プリントを基に講義をすすめる。

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　　当　　教　　員
（必）栄養と薬剤	1	3	前期	１５	大坪　豊寿　＜非常勤講師＞ 田中整形外科病院　管理栄養士 長﨑　大武　＜非常勤講師＞ プラス薬局　薬剤師

授業概要

生体が発育・成長して生命を維持し、健全な生命活動を営むために体外から取り入れる物質（栄養素）が必要である。栄養学を学習し、対象者及び自己の健康観や食生活の改善に繋げる。医療現場においては多職種が共通の科学的基礎と共通言語が必要であり、疾病別食事療法・低栄養の早期発見・重症化の予防なども含めて理解を深める。講義は資料を利用しながら進めていきます。

リハビリテーションの対象となる患者はさまざまな疾患を持っており、複数の疾患の治療が平行して行われていることが多いと思われます。内科的治療の主となるのは薬剤による治療となります。薬剤には、疾患を治療する効果がある反面、さまざまな副作用も存在します。安全にリハビリテーションを進めるためには薬剤の使用状況とその副作用に関する知識が必要となります。この授業では幅広い疾患に対する薬剤に関する知識を整理することを目指します。

学習目標

1．栄養の基礎となる栄養学及び疾病別の食事療法について理解できる。
2．臨床におけるリハビリテーション栄養の意義について理解できる。
3．薬物の基本的事項について理解する。
4．対象疾患に対する薬物療法について理解する。
5．薬物の副作用と有害事象について理解する。

授業計画

回	主　　題
1	リハビリテーションにおける栄養の意義
2	栄養素の種類と役割
3	リハビリテーション栄養・運動時の栄養
4	疾病別食事療法
5	定期試験
6	薬理作用
7	運動器系疾患に対する薬物療法について
8	神経系疾患に対する薬物療法について
9	その他の疾患に対する薬物療法について
１０	定期試験

履修の認定　出席状況と受講態度、定期試験

教科書　資料、プリント等の配布

参考書
1．PT・OT・ST のためのリハビリテーション栄養（医歯薬出版株式会社）
2．専門基礎分野　栄養学　人体の構造と機能　（医学書院）
3．生化学・栄養学（医歯薬出版株式会社）
4．リハに役立つ治療薬の知識とリスク管理
5．リハビリテーション薬学
6．PT・OT のための治療薬ガイドブック　リハビリテーション実施時の注意点

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　　当　　教　　員
（必）災害と救急救命	1	3	前期	１５	日本赤十字社スタッフ＜非常勤講師＞日本赤十字社高知県支部 武田　陽平＜非常勤講師＞高知赤十字病院　理学療法士 森下　誠也＜非常勤講師＞田野病院　理学療法士

授業概要

本科目では、救急医療と災害医療について学ぶ。

最初に、救急医療について学ぶ。高度化する医療ニーズに対応するためには、救急救命医学の基礎知識が不可欠である。授業では日本赤十字社の基礎講習の受講を通して、緊急を要する病態や外傷に関する知識を深め、一次救命処置の方法を習得する。

授業の中盤からは、災害医療について学ぶ。理学療法士は、DMAT (Disaster Medical Assistance Team) や JRAT(Japan Disaster Rehabilitation Assistance Team)等、災害時の医療チームの構成員として、大規模災害発生時には被災地に赴き、活動を展開している。授業では災害時の医療チームに所属する理学療法士から、災害医療の目的や特徴に関する講義、実際の活動紹介などを聞き、災害医療における理学療法士の役割について理解を深める。

学習目標

１．傷病者の観察と一次救命処置を理解し実践できる。
２．災害医療の目的や特徴を説明できる。
３．災害医療における理学療法士の役割について説明できる。

授業計画

回	主　　題
1	赤十字救急法 基礎講習（日本赤十字社スタッフ）
2	〃
3	〃
4	災害医療の概要・日本赤十字社の災害救護活動について（武田）
5	〃
6	災害時に活動する団体・DMAT と理学療法士の役割について(森下)
7	〃
8	〃

履修の認定

赤十字救急法基礎講習の出席と受講状況　　40%
災害医療・災害時の活動に関するレポート　60%

注意事項

本講義は、開講回数が全８回と少ないので欠席しないこと。

教科書等

赤十字救急法基礎講習テキスト
講義用資料プリント

授業科目	単位数	年次	学期	時間数	担当教員
（必）リハビリテーション概論	2	1	前期	３０	（保健学博士）宅間　豊＜本校講師＞ 理学療法士 （医博）竹林秀晃＜本校講師＞ 理学療法士 （医博）畑田早苗＜本校講師＞ 作業療法士

授業概要

本邦は人口構造の高齢化、慢性疾患の相対的増加、医療・福祉・保健の需要増大の状況に直面し、リハビリテーションの需要は年々拡大の一途をたどっている。そのような状況においてリハビリテーションを正しく捉え理解するために、その思想と概念、対象、方法論などを歴史的な変遷をふまえて概説する。また、リハビリテーションにおける理学療法士・作業療法士の位置づけと役割、情勢などについても概説する。

学習目標

１．リハビリテーションの思想や概念を説明できる。
２．リハビリテーションの各専門分野の概念を説明できる。
３．リハビリテーションチームに参画する専門職を説明できる。
４．障害レベルに応じたリハビリテーションの基本的アプローチを説明できる。
５．障害の理論的枠組みを説明できる。

授業計画

回	主題
1	第１章　リハビリテーションとは１（誤解されやすいリハビリ，リハビリテーションの語源）
2	第１章　リハビリテーションとは２（リハビリテーションの発展に寄与した歴史的事項）
3	第１章　リハビリテーションとは３（リハビリテーションの定義，理念，目標）
4	第１章　リハビリテーションとは４（リハビリテーションの４つの分野）
5	中間試験１
6	第２章　障害の理論的構造１（健康と病気，障害者とは）
7	第２章　障害の理論的構造２（国際障害分類による障害モデル）
8	第２章　障害の理論的構造３（国際生活機能分類による生活機能モデル）
9	第２章　障害の理論的構造４（国際生活機能分類による生活機能モデル）
１０	中間試験２
１１	第３章　介護保険分野におけるリハビリテーションの役割
１２	第３章　就労支援分野におけるリハビリテーションの役割
１３	第３章　精神保健分野におけるリハビリテーションの役割
１４	第３章　災害場面におけるリハビリテーションの役割
１５	定期試験

履修の認定

各章の筆記試験成績により認定する。

教科書

１．国際生活機能分類　ＩＣＦの理解と活用　上田敏（著）　萌文社
２．配布プリント

参考書

１．目でみるリハビリテーション医学　上田敏（著）　東京大学出版会
２．リハビリテーション総論　椿原彰夫（編著）　診断と治療社
３．リハビリテーションの思想－ 人間復権の医療を求めて－　上田敏（著）　医学書院
４．セラピストのための概説リハビリテーション　嶋田智明（編）　文光堂

授業科目	単位数	年次	学期	時間数	担当教員
（必）リハビリテーション医学	2	1	後期	３０	（教育学修士）井上　佳和＜本校講師＞ 理学療法士

授業概要

リハビリテーション医学は、治療医学、予防医学に次ぐ第三の医学ともいわれます。そこには疾病を対象とする治療医学とは異なり、障害を対象にした医学的アプローチであるという特徴があります。

この科目では、リハビリテーション医学における診断と評価、アプローチ方法、そして理学療法や作業療法の役割を概説し、主な対象障害の特性と介入法について講義します。

学習目標

1．リハビリテーション医学の特殊性を説明できる。
2．代表的な対象障害を列挙し、その病態を説明できる。
3．リハビリテーション医学で用いる診断・評価法を説明できる。
4．理学療法・作業療法の介入手段を説明できる。

授業計画

回	主題
1	関節可動域障害１（関節分類，可動関節分類，関節可動域とその測定，筋短縮テスト）
2	関節可動域障害２（関節可動域制限，関節可動域障害に対するアプローチ）
3	筋萎縮・筋力低下１（筋の種類，骨格筋の構造，滑走説，筋収縮の種類）
4	筋萎縮・筋力低下２（廃用症候群，廃用性筋萎縮，筋萎縮の評価，筋力の計測）
5	筋萎縮・筋力低下３（筋力低下に対するアプローチ，筋力増強の仕組み）
6	感覚障害１（感覚とは，病変部位別の感覚障害の特徴）
7	感覚障害２（感覚検査，感覚障害に対するアプローチ）
8	中間 試験
9	運動麻痺１（運動麻痺とは，運動麻痺の症状，中枢性麻痺と末梢性麻痺の回復過程の違い）
１０	運動麻痺２（中枢性と末梢性麻痺に共通する評価，リハビリテーション）
１１	骨折（骨折と修復過程，医学的治療とリハビリテーション）
１２	脊髄損傷１（脊髄の解剖，高位診断）
１３	脊髄損傷２（症状，リハビリテーション）
１４	神経筋疾患（パーキンソン病・脊髄小脳変性症）
１５	定期試験

履修の認定

定期試験を 50%、中間 試験を 50%として評定を行う。

教科書

配布プリント

参考書

1．リハビリテーション医学テキスト　三上真弘・他（編）　南江堂
2．リハビリテーション基礎医学　上田敏・他（編）　医学書院

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
（必）医療倫理学	1	1	前期	１５	（医博）竹林　秀晃＜本校講師＞ 理学療法士　他

授業概要

私達はリハビリテーションの対象者の生活に関わる重い責任を負っている。ひとりひとりが高い倫理感をもつセラピストになるために、様々な事例などを通して医療を受ける、提供するとはどのようなことであるかを常に考える習慣を身につける。

学習目標

１．医療を提供することの理念がわかる。
２．何が倫理的に正しいか、何を根拠に判断するか常に考える習慣を身に付けられる。
３．障害を個人と特徴づける一つの性格としてとらえることができる。

授業計画

回	主　　題
1	リハビリテーションと医療倫理
2	医療行為に関する倫理
3	臓器移植に関する倫理
4	高齢者医療に関する倫理
5	遺伝子操作・生殖に関する倫理
6	先端医療・脳科学に関する倫理
7	まとめ
8	課題提出

履修の認定

講義中の課題、レポート課題

注意事項

講義やグループディスカッションを通して考えたことを文章にまとめ、提出してもらう。試験と同じ重みづけをするので必ず提出すること。また、授業にはPCもしくはタブレットを持参すること。

教科書

プリントの配布

参考書

１．学生と考える生命倫理　金子章道　金内雅夫　河野由美 編　ナカニシヤ出版　2014
２．学生のための医療概論　第３版増補版　千代　昭　黒田研二編　医学書院　2012
３．医学生のための生命倫理　盛永審一郎　松永哲久 編　丸善出版　2012

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
(必)作業療法概論	1	3	前期	１５	作業療法学科本校講師

授業概要

理学療法と歴史的にも内容的にも最も近い職種のひとつである作業療法に関して、作業活動が人間にもたらす意味と治療的効果について学ぶ。同じリハビリテーションチームの職種として、作業療法士が担う役割について理解し、チームアプローチを効果的に行うことができる知識を身に付ける。作業療法の各領域における作業療法を学ぶ。

学習目標

１．作業療法の原理についておおまかに説明できる。
２．リハビリテーションチームの作業療法士の主な役割を列挙できる。
３．各領域における作業療法アプローチの概略を説明できる。

授業計画

回	主　　題
1	作業療法の歴史、作業療法の役割、作業活動の治療効果　（畑田早苗）
2	精神障害領域における作業療法　（　〃　）
3	身体障害領域における作業療法の視点（片岡聡子）
4	高次脳機能障害における作業療法　（箭野　豊）
5	地域における作業療法　（桂　雅俊）
6	精神疾患における運動療法　（萩原賢二）
7	小児における作業療法　（稲富惇一）
8	定期試験

履修の認定

筆記試験、レポート、出席状況、授業態度

参考書

１．標準作業療法学　作業療法学概論　医学書院
２．ひとと作業・作業活動
３．配布資料

専　門　分　野

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
（必）理学療法概論Ⅰ （総論）	1	1	前期	３０	（医博）竹林　秀晃＜本校講師＞ 理学療法士 〇実務経験者による授業科目

授業概要

理学療法概論Ⅰは、入学後、初めて受ける専門科目の一つである。後期に配当されている理学療法概論Ⅱと連動した科目である。理学療法に関する入門科目として、その概略を理解するため理学療法歴史から評価方法までを広く解説し、社会全体における理学療法の役割について理解する。理学療法学士を目指す４年間の学習の動機づけにつなげていく。

学習目標

１．理学療法の歴史を理解し、理学療法をとりまく組織、法律や制度について説明できる。
２．理学療法の枠組みとプロセスを説明できる。
３．理学療法専門用語を適切に用いることができる。
４．理学療法における評価項目を説明できる。

授業計画

回	主　　題
1	理学療法の歴史、位置付け、定義
2	理学療法士としての心得・求められる要素
3	リハビリテーションにかかわる他職種
4	理学療法士として必要なコミュニケーション力
5	運動と姿勢・関節運動について
6	理学療法プロセス　理学療法評価の目的
7	理学療法評価・問診と面接
8	理学療法で使用する器具について
9	理学療法評価・関節可動域測定
１０	理学療法評価・筋力測定
１１	関節可動域・筋力測定の実技
１２	基本動作について
１３	歩行について　歩行補助具・車いすについて
１４	理学療法士として知っておきたい制度
１５	定期試験・実技試験

履修の認定

筆記試験（90%）・講義中の課題（10%）

教科書

指定しない。毎回必要な資料を配付する。

参考書

１．目で見るリハビリテーション医学　東京大学出版会
２．標準理学療法学　理学療法学概説 内山　靖 編 奈良　勲 監修 医学書院　2014
３．PT・OT のためのコミュニケーション実践ガイド 第２版　山口美和　医学書院　2016
４．PT スタートガイド　基礎理学療法概論　網本　和 監修 MEDICAL VIEW　2018

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
（必）理学療法概論Ⅱ （評価・治療学）	1	1	後期	３０	（医博）竹林　秀晃＜本校講師＞ 理学療法士　他 ○実務経験者による授業科目

授業概要

前期の理学療法概論Ⅰで学習した理学療法評価に続き、理学療法で用いる治療手段について学習する。なかでも運動療法は理学療法の主要な治療方法であり、この運動療法を中心に講義と実習をすすめていく。そして運動療法を補完する物理療法や装具療法についても基本的事項を学習する。また、後半部分では理学療法の実際と倫理的側面についても触れる予定である。

学習目標

１．物理療法・運動療法の主な方法論を説明することができる。
２．基本的な関節可動域運動、筋力トレーニング運動、動作介助を実践できる。
３．疾患別の理学療法の基本を理解することができる。

授業計画

回	主　　題
1	運動療法の目的
2	関節可動域運動
3	筋力トレーニング運動
4	義肢装具療法（下肢装具・上肢装具・体幹装具）
5	義肢装具療法（義肢・切断の理学療法）
6	疾患別理学療法（中枢神経障害理学療法）
7	〃　（脊髄損傷理学療法）
8	〃　（運動器障害理学療法）
9	〃　（内部障害理学療法）
１０	〃　（発達障害理学療法）
１１	〃　（老年期理学療法）
１２	〃　（予防理学療法）
１３	物理療法概論　（岡部）
１４	物理療法実技　（岡部）
１５	定期試験・実技試験

履修の認定

筆記試験（90%）・講義中の課題（10%）

教科書

指定しない。毎回必要な資料を配付する。

参考書

１．目で見るリハビリテーション医学　東京大学出版会
２．標準理学療法学　理学療法学概説 内山　靖 編 奈良　勲 監修 医学書院　2014
３．PT・OT のためのコミュニケーション実践ガイド 第２版　山口美和　医学書院　2016
４．PT スタートガイド　基礎理学療法概論　網本　和 監修 MEDICAL VIEW　2018

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
（必）理学療法研究法	1	3	前期	３０	（医博）竹林　秀晃＜本校講師＞ 理学療法士　他 ○実務経験者による授業科目

授業概要

理学療法の専門性、すなわち理学療法独自の治療法や援助法を開発・発展させるためには研究が不可欠である。よって、本校の卒業生には専門職としての志向性がある程度明確になった段階で、各自の勤務施設での懸命な業務に加え、研究活動にも取り組んでほしいと願っている。

そこで、この科目では将来の研究活動への動機として「理学療法セミナーⅠ（３年次）」と「卒業研究（４年次）」に連動させることを前提に、まず総論的に研究の方法論を概説する。そして、各論では学生が卒業研究時に活用することの多い測定機器の概要を説明し、測定演習を行う。

学習目標

１．研究の方法論を知ることができる。
２．体表的な測定機器の概要を理解でき、基本操作ができる。
３．論文の検索や精読し、研究計画に反映できるようにする。

授業計画

回	主　　題
1	研究法１（理学療法士と研究領域）
2	研究法２（リサーチクエッションについて）
3	研究法３（文献検索・論文の批判的精読）
4	研究法４（研究計画書・研究発表の方法と注意点）
5	研究法５（臨床研究の実際）
6	研究法６（実験基礎研究の実際）
7	測定演習１（筋力測定装置）
8	測定演習２（超音波画像診断装置）
9	測定演習３（呼吸代謝測定装置）
１０	測定演習４（反応時間計測装置・筋力調節測定装置）
１１	測定演習５（重心動揺解析装置）
１２	測定演習６（三次元動作解析装置・床反力計）
１３	測定演習７（筋電計）
１４	測定演習８（加速度計）
１５	課題および定期試験

履修の認定

筆記試験（90%）・講義中の課題（10%）

教科書

指定しない。毎回必要な資料を配付する。

参考書

１．標準理学療法学　理学療法研究法 第３版　内山　靖 編 奈良　勲 監修 医学書院　2013
２．計測法入門 計り方，計る意味　内山　靖・他編　協同医書　2001
３．はじめての研究法　コ・メディカルの研究法入門　千住秀明・他監修　2004
４．すぐできる！リハビリテーション統計　山本澄子・他監修　南江堂　2012

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
（必）臨床実習入門	1	3	後期	３０	（保健学博士）宅間　豊＜本校講師＞ 理学療法士 （教育学修士）井上佳和＜本校講師＞ 理学療法士 筒井　典子・中村　覚＜非常勤講師＞ 人・みらい研究所

授業概要

臨床総合実習を目前にする時期に臨床実習受講のために必要な事柄を教授する。また、臨床実習の意義や対象者から望まれる理学療法士像等について学生自身が深く考える機会を設ける。

学習目標

１．臨床総合実習の意義、教育目標、方法論などを理解できる。
２．臨床総合実習に向けての学習レディネスを主体的に考えることができる。
３．臨床総合実習に必要な関連知識を獲得できる。
４．理学療法士に必要なコミュニケーション力を身に付けることができる。

授業計画

回	主　　題
1	理学療法士に必要な資質を考える（宅間）
2	クライアントとの信頼獲得を考える（宅間）
3	国際生活機能分類の振り返り（宅間）
4	問題指向型システム（POS）の記録形式（宅間）
5	医療コミュニケーション①（援助的コミュニケーション）（筒井・中村）
6	医療コミュニケーション②（効果的な聴き方：主訴の確認）（筒井・中村）
7	医療コミュニケーション③（相手を見る：非言語メッセージの重要性）（筒井・中村）
8	医療コミュニケーション④（効果的な伝え方）（筒井・中村）
9	医療コミュニケーション⑤（共感的応答）（筒井・中村）
１０	医療コミュニケーション⑥（共感力とチームビルディング）（筒井・中村）
１１	臨床総合実習の概要①
１２	臨床総合実習の概要②
１３	理学療法実技①
１４	理学療法実技②
１５	理学療法実技③

履修の認定

理学療法に関して筆記・口述・実技の試験を行う

教科書

１．臨床総合実習の手引き
２．オリジナル資料の配布

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
（必）理学療法セミナーⅠ （卒業研究計画）	1	3	前期	３０	理学療法学科本校講師

授業概要

理学療法研究の手順を学ぶため理学療法学科教員が担当するいずれかのゼミに所属する。4年次に取り組む卒業研究のための研究計画書を作成するため、研究の過程を実際に経験し研究の方法論を学ぶ。論理的思考や自らの能動的な活動が望まれる。

学習目標

1．研究疑問の設定ができる。
2．文献レビューができる。
3．研究計画書の作成ができる。
4．必要に応じて予備研究ができる。

授業計画

回	主　　題
1	授業ガイダンス（授業計画、各ゼミの説明、希望ゼミの調査）
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	所属ゼミでの活動
9	研究計画書作成
１０	
１１	
１２	
１３	
１４	
１５	研究計画書の発表

履修の認定

研究計画書の内容とそれに関しての発表 50%
研究計画の進め方（次回の指導までの課題への取り組み方）50%
出席状況 10%

教科書

1．PT・OT のための臨床研究はじめの一歩　山田　実・編著　羊土社　2016
2．配布プリント

授業科目	単位数	年次	学期	時間数	担当教員
（必）理学療法セミナーⅡ （国家試験対策）	2	4	後期	６０	理学療法学科本校講師

授業概要

この科目では国家試験対策を行う。

理学療法学科教員が、過去の試験問題の傾向を分析し、重要と考えられる事柄を事前に学生に提示する。学生はそれを基にして担当領域の資料を作成し、授業でその解説を行う。教員は学生が行う解説について必要に応じて助言を与える他、知識の定着を図る授業を行う。翌週に前週の授業のまとめと学習成果の確認のための小テストを行う。

学習目標

１．過去の国家試験問題の傾向を知ることができる。
２．国家試験に合格するために不可欠な知識を修得することができる。

授業計画

回	主題
１週目	基礎医学１
２週目	基礎医学２
３週目	治療・訓練技術（物理療法学、義肢・装具学、運動療法基礎学）
４週目	臨床医学と疾患別運動療法１
５週目	臨床医学と疾患別運動療法２
６週目	臨床医学と疾患別運動療法３
７週目	その他（病理学、臨床心理学、精神医学、研究法）
８週目	単位認定試験

履修の認定

単位認定試験　100%

教科書・参考書

１.国試の達人　運動解剖生理学編　アイペック
２.国試の達人　臨床医学編　　アイペック
３.国試の達人　理学療法編　　アイペック
４.クエスチョンバンク　国家試験問題解説　共通問題　メディックメディア
５.クエスチョンバンク　国家試験問題解説　専門問題　メディックメディア
６.国家試験必勝ポイント理学療法　基礎 PT 学　　医歯薬出版
７.国家試験必勝ポイント理学療法　障害別 PT 治療学　　医歯薬出版
８.国家試験必勝ポイント専門基礎分野　基礎医学編　医歯薬出版
９．国家試験必勝ポイント専門基礎分野　臨床医学編　医歯薬出版
１０.国家試験問題　解答と解説　　医歯薬出版

以上の中から国家試験対策の手助けとなる書籍を購入する（開講前に教員が紹介する）。

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
（必）卒業研究	2	4	後期	６０	理学療法学科本校講師

授業概要

３年次の理学療法セミナーＩと理学療法研究法に連動している。担当教員の指導下、理学療法セミナーＩで作成した実験の計画に基づき、データ収集、実施と口述発表と論文作成のプロセスを経験する。

学習目標

１．研究の流れを知ることができる。
２．研究計画書に基づき研究を実施することができる。
３．研究の成果を発表することができる。
４．科学的思考過程や問題解決能力を身につけることができる。

授業計画

日　程	主　　題
１０月中旬	研究論文 提出
１０月下旬	口述発表

履修の認定

口述発表（卒業研究発表会）　50%
研究論文執筆への取り組み（研究の準備とデータ収集の進め方、論文作成への取り組み）　50%

教科書

１．PT・OT のための臨床研究はじめの一歩　山田　実・編著　羊土社　2016

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　　当　　教　　員
（必）理学療法部門管理論	1	3	後期	１５	高芝潤＜非常勤講師＞近森リハビリテーション病院 理学療法士 田口貴文＜非常勤講師＞田野病院　理学療法士 近森　幹子＜非常勤講師＞近森病院　看護師

授業概要

医療は病院や施設の医療システムに則り提供されるものであり、理学療法士が行う医療行為もそのシステムに連動して提供される。個々の理学療法士には、臨床に関する知識や技術を自ら高める能力が必要とされているが、同時に知識や技術を患者に提供する際の管理、つまりマネジメント能力も求められる時代へと変化をしている。

本科目では、事故防止対策、医療や介護制度の知識をはじめ、適切で安全な医療提供体制の在り方について学び、組織の中で、社会のニーズにも応えられる、質のよい医療提供者として振る舞える姿勢を養う。

学習目標

１．病院・施設・在宅の中で対象者に対する課題の把握とリスク管理やマネジメントが理解できる。
２．事故防止対策（リスクマネジメント）、感染予防対策について理解できる。
３．医療や保健・福祉を取り巻く制度について理解できる。

授業計画

回	主　　題
1	理学療法管理学・マネジメントの概念 1（高芝）
2	理学療法管理学・マネジメントの概念 2（高芝）
3	理学療法業務のマネジメント・職場管理・組織運営 1（高芝）
4	理学療法業務のマネジメント・職場管理・組織運営 2（高芝）
5	診療・介護報酬制度の概要 1（田口）
6	診療・介護報酬制度の概要 2（田口）
7	院内感染対策 1（近森）
8	院内感染対策 2（近森）

履修の認定

レポート 90%
出席状況、授業態度 10%

注意事項

本講義は、開講回数が全 8 回と少ないので欠席しないこと。

教科書

講義用冊子、資料プリントを配布する。

参考書

１．理学療法管理学　奈良勲・他（編）　医歯薬出版 2018
２．理学療法管理学　15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト　長野聖・他（編） 2020
３．リハベーシック 安全管理学・救急医療学　内山靖・他（編）医歯薬出版 2021

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
（必）理学療法教育論	1	3	後期	１５	（医博）宮本　謙三〈本校講師〉 理学療法士 （医博）奥田　教宏〈本校講師〉 理学療法士 （医科学修士）近藤　寛＜本校講師＞ 理学療法士

授業概要

理学療法士には、専門職として、自己研鑽を含めた生涯学習を継続して行う責務があり、卒前教育や卒後教育について理解する。理学療法士国家資格を取得するにあたり、本校では卒前教育を 4 年間にわたりみなさんに教授し、理学療法士免許を取得した後には、卒後教育がはじまりどのようなキャリアラダーで進んで行くか説明する。また、臨床現場で必要となってくる患者教育や組織運営に関するマネジメント能力を養うために、理学療法倫理や理学療法教育について講義し理解を深めていく。

より質の高い理学療法が提供できるよう、理学療法教育に必要な知識を培うとともに、職業倫理を高められるような講義を展開していく。

学習目標

１．教育の本質と役割について理解することができる
２．卒後教育を理解しキャリアラダーのイメージを持てるようになる
３．患者教育のマネジメント能力や職業倫理を高めることができる

授業計画

回	主　　題
1	理学療法教育の歴史
2	教育技法と教育評価
3	卒前・卒後教育
4	卒後キャリアラダー
5	患者教育とは
6	患者教育の考え方、コミュニケーションスキルの重要性
7	セルフモニタリングの作成
8	単位認定試験

履修の認定

出席状況と試験結果とを総合的に判定する。

教科書

１．講義の際に適宜資料を配布する。

参考書

１.講義の際に適宜資料を配布する。

授業科目	単位数	年次	学期	時間数	担当教員
（必）理学療法評価学Ⅰ （総論・バイタル・形態）	1	1	後期	３０	（教育学修士）岡部　孝生＜本校講師＞ 理学療法士 ○実務経験者による授業科目

授業概要

理学療法は評価に始まり評価に終わるといわれ、理学療法にとって評価は欠くことのできない重要な過程である。本講義では評価を基盤として展開される理学療法の一連の過程を把握することより、理学療法評価の意義と目的を学習する。さらに、評価の基礎となる医療情報収集と理学療法記録方法（面接技法や診療記録記載方法など）や、リスク管理のために最低限必要な vital sign を実技も含めて講義する。さらには姿勢や形態測定についても取り上げる。

学習目標

1. 理学療法における評価の意義・目的を理解する。
2. 理学療法評価の一連の過程・構成要素・思考過程を理解する。
3. 理学療法評価の代表的な検査・測定項目を理解する。

授業計画

回	主題
1	理学療法評価の基礎、理学療法評価の進め方
2	医療面接と情報収集①
3	医療面接と情報収集②
4	vital sign の測定・評価①（脈拍・呼吸）
5	vital sign の測定・評価②（体温・血圧）
6	意識障害・全身状態の評価
7	vital sign の測定・評価の実技①
8	vital sign の測定・評価の実技②
9	vital sign の測定・評価の実技③
１０	姿勢評価・形態測定①
１１	姿勢評価・形態測定②
１２	姿勢評価・形態測定の実技①
１３	姿勢評価・形態測定の実技②
１４	まとめ
１５	定期試験

履修の認定

定期試験（90%）、受講態度（10%）

教科書

1. PT・OT ビジュアルテキスト　リハビリテーション基礎評価学　第 2 版　潮見泰藏・下田信明　羊土社　2019
2. PT・OT のための臨床技能と OSCE　コミュニケーションと介助・検査測定 編　第 2 版　才藤栄一　金原出版　2019
3. 骨格筋の形と触察法　第 2 版　河上敬介、磯貝香(著)　大峰閣　2013

参考書

1. 標準理学療法学 理学療法評価学　第 3 版　奈良勲(監)　医学書院　2019
2. 理学療法評価学　改訂　第 4 版　松沢正，江口勝彦　金原出版　2012

授業科目	単位数	年次	学期	時間数	担当教員
（必）理学療法評価学Ⅱ （ROM・感覚）	1	2	前期	３０	（医科学修士）近藤　寛＜本校講師＞ 理学療法士 ○実務経験者による授業科目

授業概要

理学療法評価学Ⅱでは、理学療法評価の一部分である関節可動域や感覚の評価について学習する。本講義は、感覚検査や関節可動域検査、姿勢アライメント、整形外科疾患検査など、それぞれに必要な概論と基本手技、記録方法などを学習する。

学習目標

1.検査・測定に必要なランドマークや注意点を理解できる。
2.関節可動域検査や感覚検査などの目的・適応を理解し、基本的手技ができる。
3.姿勢アライメントの正常と異常を知り、理学療法との関連性について理解する。

授業計画

回	主題
1	姿勢・アライメント①
2	姿勢・アライメント②
3	姿勢・アライメント③
4	関節可動域検査　総論
5	関節可動域検査　上肢
6	関節可動域検査　下肢・その他
7	関節可動域検査　実技１
8	関節可動域検査　実技２
9	整形外科疾患検査（筋短縮テスト）
１０	整形外科疾患検査（筋短縮テスト）実技
１１	感覚検査１
１２	感覚検査２
１３	感覚検査３　実技
１４	講義まとめ
１５	筆記・実技試験

履修の認定

筆記試験・実技試験

注意事項

実技の授業もあるため、実技ができる服装や器具を用意しておくこと。

教科書

１．リハビリテーション基礎評価学　第２版　潮見泰藏・他編　羊土社　2019

参考書

１．標準理学療法学　理学療法評価学　第３版　奈良　勲監修　医学書院　2019
２．理学療法評価学　第６版　松澤　正・江口勝彦 著　金原出版　2018
３．理学療法ハンドブック 第１巻 理学療法の基礎と評価　第４版 細田多穂編 協同医書 2010

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
（必）理学療法評価学Ⅲ（筋力）	1	2	前期	３０	（学術修士）宮本　祥子＜本校講師＞ 理学療法士 ○実務経験者による授業科目

授業概要

理学療法評価学Ⅲでは筋力検査を学習する。人体の円滑な身体運動や姿勢保持は、神経系の命令により筋が収縮した結果、関節が動いたり、固定されたりすることにより成り立っている。筋力低下は種々の原因で発生するが、筋力を量的に測定する方法として徒手筋力検査法(MMT)は理学療法士にとって大変重要な検査法である。本講義では、健常者をモデルにして MMT を正確に実施できることを目標とする。

学習目標

１．筋力検査の目的が理解できる。
２．健常者をモデルにMMTを正確に行うことができる。
３．筋力低下による代償運動が理解できる。

授業計画

回	主　　題
1	筋力検査の目的と種類、徒手筋力検査法の原理
2	徒手筋力検査法：下肢(1)
3	徒手筋力検査法：下肢(2)
4	徒手筋力検査法：下肢(3)
5	徒手筋力検査法：下肢(4)
6	徒手筋力検査法：下肢(5)
7	徒手筋力検査法：上肢(1)
8	徒手筋力検査法：上肢(2)
9	徒手筋力検査法：上肢(3)
１０	徒手筋力検査法：上肢(4)
１１	徒手筋力検査法：上肢(5)
１２	徒手筋力検査法：体幹
１３	代償運動、
１４	ロコモティブシンドロームとサルコペニア
１５	試験

履修の認定

筆記試験 80%、実技試験 15%、出席状況と受講状況(課題の提出を含む) 5%

注意事項

出席状況および学習態度を評定に加味する。
実習が中心であるので、毎時間実習が可能な服装で受講すること。

教科書

１．新・徒手筋力検査法　第 10 版　Dale Avers, Marybeth Brown（著）津山直一 他(訳)　協同医書出版社 2020

参考書

１．ロコモティブシンドローム診療ガイド 2021　日本整形外科学会，日本運動器科学会（監修）2021

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
（必）理学療法評価学Ⅳ （神経・画像評価）	1	2	前期	３０	（教育学修士）岡部　孝生＜本校講師＞ 理学療法士 ○実務経験者による授業科目

授業概要

理学療法を実施する上で、まず行うことは患者の評価になります。理学療法の評価については1年次に理学療法評価学Ⅰを履修しました。本講義はそれに続くものであり、具体的には腱反射検査、筋緊張検査、協調性検査、バランス検査、さらに画像評価などを取り扱います。また、各評価の方法だけでなく、各評価の意味を理解するために必要な解剖学的・生理学的知識の復習も行います。

学習目標

1.評価の種類を挙げられるようにする。
2.評価の意味を理解する。
3.各種評価を自ら行えるようにする。

授業計画

回	主　　題
1	反射検査①
2	反射検査②
3	筋緊張検査①
4	筋緊張検査②
5	実技①
6	協調性検査①
7	協調性検査②
8	実技②
9	バランス検査①
１０	バランス検査②
１１	実技③
１２	画像検査①
１３	画像検査②
１４	まとめ
１５	定期試験

履修の認定

定期試験（90%）、受講態度（10%）

教科書

1．PT・OT ビジュアルテキスト　リハビリテーション基礎評価学　第２版　潮見泰藏・下田信明　羊土社　2019
2．PT・OT のための臨床技能と OSCE　コミュニケーションと介助・検査測定 編　第２版　才藤栄一　金原出版　2019

参考書

1．標準理学療法学 理学療法評価学　第３版　奈良勲(監)　医学書院　2019
2．理学療法評価学　改訂第４版　松沢正，江口勝彦　金原出版　2012
3．ベッドサイドの神経の診かた 改訂 18 版　田崎義昭ほか　南山堂　2016
4．病気がみえる vol.7 脳・神経　第２版　医療情報科学研究所　メディックメディア　2017
5．運動療法に役立つ 単純 X 線像の読み方　青木 隆明(監)　メジカルビュー社　2011

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　　当　　教　　員
（必）理学療法評価実習	1	2	後期	３０	（医博）奥田　教宏 ＜本校講師＞ 理学療法士 （心身健康科学修士）渡邊　家泰 ＜本校講師＞理学療法士 （医科学修士）近藤　　寛＜本校講師＞ 理学療法士 ○実務経験者による授業科目

授業概要

本科目は、これまでに履修してきた理学療法評価がより実践的なものとなるよう模擬症例を通して講義を行っていく。講義の目的は、評価内容の復習と評価の実技指導を行なうことで、臨床評価実習までに最低限必要な評価内容を修得できるようにすることである。臨床評価実習では、対象者を目の前にして学生個人が一人で行わなければなりません。一人一人が自立して評価を行なうことができるよう、自覚を持って取り組んで下さい。

学習目標

１．基本的評価技術の再確認と技術の習得　　２．基礎知識の再確認

授業計画

回	主　　題
1	臨床実習とは
2	臨床現場からみる評価実習に必要なこと
3	症例検討１　大腿骨頸部骨折
4	バイタル、ROM-T 実技
5	症例検討２　脊椎圧迫骨折
6	MMT、感覚検査、疼痛評価実技
7	症例検討３　変形性股関節症
8	メジャーメント、ADL 介助
9	症例検討４　変形性股関節症
１０	歩行、バランス検査実技
１１	症例検討５　変形性膝関節症
１２	Brunnstrom stage（12Grade）、反射実技
１３	統合と解釈
１４	臨床実習の心構え
１５	筆記試験・実技試験

履修の認定

筆記試験の成績

教科書

1. リハビリテーション基礎評価学　潮見泰藏・他　羊土社
2. 新・徒手筋力検査法　津山直一・中村耕三　協同医書出版社
3. PT・OT のための臨床技能と OSCE　コミュニケーションと介助・検査測定編　才藤 栄一 ・他　金原出版株式会社
4. PT・OT のための臨床技能と OSCE　機能障害・能力低下への介入編　才藤 栄一 ・他　金原出版株式会社

持参物

ケーシー、メジャー、打鍵器、ゴニオメーター、筆など評価に必要なもの

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
（必）理学療法評価法演習	1	2	後期	３０	（医博）宮本　謙三＜本校講師＞ 理学療法士 ○実務経験者による授業科目

授業概要

理学療法評価法の関連科目において学習した内容をもとに、実践に応用するための思考過程を身につける科目である。暗記する科目ではなく、なぜそのような評価を行うのか、その結果はどう解釈すればよいのか、といった考え方をトレーニングする。後半は理学療法プログラムの立案に向けた演習と実際の運動指導方法を討議する。

学習目標

１．理学療法の過程を説明できる。
２．障害像に応じて適切な事前情報を収集できる。
３．障害像と事前情報に基づき適切な評価項目を抽出できる。
４．測定した評価結果を正しく解釈し問題点を抽出できる。
５．適切な理学療法プログラムを立案できる。

授業計画

回	主　　題
1	理学療法評価過程
2	情報の種類と選択および記録
3	問診の目的と方略および記録
4	理学療法評価項目の選択
5	筋力評価法の選択と応用
6	感覚評価法の選択と応用
7	神経学的評価の選択と応用
8	評価結果の統合と解釈
9	理学療法プログラムの立案過程
１０	筋力トレーニングの立案
１１	可動域トレーニングの立案
１２	中枢性運動麻痺の回復トレーニングの立案
１３	バランストレーニングの立案
１４	デモンストレーション
１５	定期試験

履修の認定

定期試験、出席状況、受講態度、レポート等を総合して認定する。

教科書

１．臨床実習とケーススタディ　鶴見隆正（編）　医学書院

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
（必）運動分析学	1	2	後期	３０	（心身健康科学修士）渡邊家泰 ＜本校講師＞　理学療法士 〇実務経験者による授業科目

授業概要

運動とは、姿勢（体位と構え）が時間的に連続して変化したものであり、動作とは運動によって具体的に行われるものである。理学療法の主目的は、対象者における動作の問題解決にあるが、そのためにはヒトの運動を正確にとらえ分析できる能力が理学療法士には求められる。

本講義では、理学療法場面で広く行われている姿勢・動作分析の技術向上のため、動作を構成する運動を的確にとらえ記述できることを目的とする。

学習目標

1.臨床における運動分析の目的を理解する。
2.運動を観察し分析することができる。
3.運動学的用語を用いて運動を記述できる。
4.基本動作を構成する運動をとらえ説明できる。
5.正常から逸脱した運動を観察し、原因の仮説を立て、立証できる評価項目を立案できる。

授業計画

回	主　　題
1	運動分析学総論
2	運動分析の方法
3	運動分析演習（push up 動作）
4	寝返り動作の運動分析
5	起き上がり動作の運動分析
6	起立・着座動作の運動分析
7	歩行分析の方法（1）
8	歩行分析の方法（2）
9	臨床実践を目的とした運動分析（1）
１０	臨床実践を目的とした運動分析（2）
１１	整形外科疾患症例の運動分析（1）
１２	整形外科疾患症例の運動分析（2）
１３	脳卒中片麻痺症例の運動分析（1）
１４	脳卒中片麻痺症例の運動分析（2）
１５	単位認定試験

履修の認定

筆記試験 80%、受講態度 10%、レポート 10%を総合して認定する。

教科書

石井慎一郎：動作分析臨床活用講座：メジカルビュー社，2013
随時、資料を配付する。

参考書

１．畠中泰彦（編）：PT・OT ビジュアルテキスト 姿勢・動作・歩行分析(第 1 版)，羊土社：2015
２．月城慶一：観察による歩行分析(第 1 版)，医学書院：2012
３．武田　功：ペリー歩行分析　正常歩行と異常歩行（第 2 版），医歯薬出版社：2017

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
（必）運動療法学Ⅰ（総論）	1	2	前期	３０	（医博）竹林　秀晃＜本校講師＞ 理学療法士 〇実務経験者による授業科目

授業概要

運動療法は、理学療法の中で主要な治療技術である。運動療法とは「運動障害・予防を運動そのものを用いて維持・改善すること」である。本講義では、運動療法の歴史・位置付け・目的・方法・適応について学習し、各種運動療法技術の理論を中心に学習を進める。

学習目標

１．運動療法の特徴ならびに障害に対する運動療法の適応を理解する。
２．正常な機能と病態生理を結びつけ、理学療法との関連性について理解する。
３．基本的運動の種類・特徴・適応・注意点を理解する。
４．各種運動療法の意義・理論を理解する。

授業計画

回	主　　題
1	運動療法概論
2	各種機能・形態障害に対する運動療法の基礎Ⅰ
3	基本運動
4	関節の機能と障害
5	関節可動域運動の理論
6	関節可動域運動の実習
7	筋の機能と障害
8	筋力維持増強運動の理論
9	筋力維持増強運動の実習
１０	持久力運動の理論
１１	神経系の機能と障害
１２	協調性運動の理論
１３	神経筋再教育・神経生理学的アプローチの理論
１４	脳科学・運動制御・運動学習と運動療法
１５	筆記試験

履修の認定

筆記試験（90%）・講義中の課題（10%）

注意事項

実習が多いため、運動が可能な服装を用意しておくこと。

教科書

１．運動療法学　障害別アプローチの理論と実際　市橋則明 編　文光堂　2008

参考書

１．標準理学療法学　運動療法・総論　第３版　奈良勲監修　医学書院　2010
２．理学療法士のための運動療法　岩倉博光監修　金原出版　1995
３．運動療法学テキスト　細田多穂監修　南江堂　2010
４．理学療法ハンドブック　第２巻　治療アプローチ　細田多穂・柳澤健編　協同医書　2010

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
（必）運動療法学Ⅱ （障害別各論）	1	2	後期	３０	（医博）竹林　秀晃＜本校講師＞ 理学療法士 〇実務経験者による授業科目

授業概要

運動療法は、理学療法の中で主要な治療技術である。運動療法総論にて各種運動療法の理論を学習するが、本講義は、各種運動療法の理論を踏まえたうえで基本的な技術の習得を目的に実習を中心に講義を展開する。

学習目標

１．各種運動療法の理論と基本的な手技を理解する。
２．各種運動療法の意義・目的・適応・禁忌を理解する。
３．各種運動療法技術に必要な基礎的知識を理解する。

授業計画

回	主　　題
1	運動療法の基礎知識
2	関節可動域制限に対する運動療法
3	筋力低下に対する運動療法
4	持久力低下に対する運動療法
5	感覚障害に対する運動療法
6	協調性運動障害に対する運動療法
7	姿勢・バランス障害に対する運動療法
8	歩行障害に対する運動療法
9	中枢神経性運動麻痺に対する運動療法
１０	高次脳機能障害に対する運動療法
１１	痛みに対する運動療法
１２	加齢による機能障害に対する運動療法
１３	中枢性運動麻痺に対する運動療法
１４	まとめ
１５	筆記・実技試験

履修の認定

筆記試験（90%）・講義中の課題（10%）

注意事項

実習が多いため、運動が可能な服装を用意しておくこと。

教科書

１．運動療法学　障害別アプローチの理論と実際　市橋則明 編　文光堂　2008

参考書

１．標準理学療法学　運動療法・総論　第３版　奈良勲監修　医学書院　2010
２．理学療法士のための運動療法　岩倉博光監修　金原出版　1995
３．運動療法学テキスト　細田多穂 監修　南江堂　2010
４．理学療法ハンドブック 第２巻　治療アプローチ　細田多穂・柳澤健 編　協同医書　2010

授業科目	単位数	年次	学期	時間数	担当教員
（必）物理療法学Ⅰ （温熱・光線療法）	1	3	前期	３０	（教育学修士）岡部　孝生＜本校講師＞ 理学療法士 ○実務経験者による授業科目

授業概要

物理療法とは電気、温・寒熱、水、光線、力などの物理的エネルギーを生体に応用することによって、その機能の活性化と恒常性の維持・改善などを図る手法であり理学療法場面でも用いられる。物理療法学Ⅰは、これらのうち温・寒冷、光線などを応用した物理療法を理解していく。

学習目標

1．物理療法の概念を理解する。
2．各手法の作用機序を理解する。
3．理学療法における物理療法の位置付けを考える。

授業計画

回	主題
1	物理療法総論
2	温熱療法総論
3	ホットパック療法、パラフィン療法
4	赤外線療法、極超短波療法
5	赤外線療法、極超短波療法
6	超短波、超音波療法
7	超短波、超音波療法
8	寒冷療法総論
9	一般寒冷療法
１０	一般寒冷療法、極低温療法
１１	光線療法総論
１２	紫外線療法、レーザー光線療法
１３	治療実習１
１４	治療実習２
１５	定期試験

履修の認定

定期試験（90%）、受講態度（10%）

教科書

1．PT・OT ビジュアルテキスト　エビデンスから身につける物理療法　庄本康治　羊土社　2017

参考書

1．理学療法ハンドブック 改訂第4版 第2巻 治療アプローチ　細田多穂ほか　協同医書出版　2010
2．標準理学療法学 専門分野 物理療法学　第4版　奈良勲（監修）　医学書院　2013
3．EBM物理療法　原著第3版　渡部一郎（訳）　医歯薬出版　2010
4．物理療法学テキスト　改訂第2版（シンプル理学療法学シリーズ）　細田多穂　南江堂　2013
5．最新物理療法の臨床適応　庄本康治（編）　文光堂　2012
6．物理療法学　改訂第2版　松沢正，江口勝彦（監修）　金原出版　2012
7．理学療法士のための物理療法臨床判断ガイドブック　木村貞治（編）　文光堂　2007
8．理学療法学ゴールド・マスター・テキスト（3）　物理療法学　柳澤健　メジカルビュー社　2009
9．ビジュアルレクチャー理学療法基礎治療学(2) 物理療法　中山孝，菅原仁(編) 医歯薬出版　2012
10．物理療法マニュアル　嶋田智明ほか　医歯薬出版　1996

授業科目	単位数	年次	学期	時間数	担当教員
（必）物理療法学Ⅱ （電気療法）	1	3	後期	３０	（教育学修士）岡部　孝生＜本校講師＞ 理学療法士 ○実務経験者による授業科目

授業概要

物理療法とは電気、温・寒熱、水、光線、力などの物理的エネルギーを生体に応用することによって、その機能の活性化と恒常性の維持・改善などを図る手法であり理学療法場面でも用いられる。物理療法学Ⅱは物理療法学Ⅰに続くもので、これらのうち電気、水、力を応用した物理療法を理解していく。

学習目標

1．物理療法の概念を理解する。
2．各手法の作用機序を理解する。
3．理学療法における物理療法の位置付けを考える。

授業計画

回	主題
1	牽引療法総論
2	牽引療法（頚椎牽引、腰椎牽引）
3	治療実習
4	水治療法総論、全身浴
5	水治療法（部分浴、交代浴）
6	治療実習
7	電気刺激療法総論１
8	電気刺激療法総論２
9	電気刺激療法（低周波）
１０	電気療法（低周波、中周波）
１１	治療実習１
１２	治療実習２
１３	物理療法学Ⅰ復習
１４	物理療法学Ⅱ復習
１５	定期試験

履修の認定

定期試験（90%）、受講態度（10%）

教科書

1．PT・OT ビジュアルテキスト　エビデンスから身につける物理療法　庄本康治　羊土社　2017

参考書

1．理学療法ハンドブック 改訂第４版 第２巻 治療アプローチ　細田多穂ほか　協同 医書出 版　2010
2．標準理学療法学 専門分野 物理療法学　第４版　奈良勲（監修）　医学書院　2013
3．EBM 物理療法　原著第３版　渡部一郎（訳）　医歯薬出 版　2010
4．物理療法学テキスト　改訂第２版（シンプル理学療法学シリーズ）　細田多穂　南江堂　2013
5．最新物理療法の臨床適応　庄本康治（編）　文光堂　2012
6．物理療法学　改訂第２版　松沢正，江口勝彦（監修）　金原出 版　2012
7．理学療法士のための物理療法臨床判断ガイドブック　木村貞治（編）　文光堂　2007
8．理学療法学ゴールド・マスター・テキスト（3）　物理療法学　柳澤健　メジカルビュー社　2009
9．ビジュアルレクチャー理学療法基礎治療学 (2) 物理療法　中山孝，菅原仁（編）医歯薬出 版 2012
10．物理療法マニュアル　嶋田智明ほか　医歯薬出 版　1996

授業科目	単位数	年次	学期	時間数	担当教員
（必）装具療法学Ⅰ （下肢）	1	2	前期	３０	（心身健康科学修士）渡邊　家泰 ＜本校講師＞　理学療法士 〇実務経験者による授業科目

授業概要

装具療法は、理学療法の重要な治療手段の一つである。運動療法との併用によって、より高い治療効果を期待することができる。一方で、装具には傷病に応じた様々な種類が存在し、それを的確に選択し、治療に用いていくことが理学療法士には求められる。装具療法学Ⅰでは、総論として理学療法における装具療法の位置付け等を確認するとともに、各論として下肢装具を中心に取り上げる。なお、本科目は治療用装具として、更生用装具として活用できることを目指す。解剖・運動学の知識と、臨床医学の基本的内容を必要とするので、受講に向けて復習に努めること。

学習目標

１．下肢装具の構造を理解する。
２．下肢装具の適合判定ができる。
３．下肢装具の種類を知り、傷病に応じた装具の適応を説明できる。
４．基本的な装具療法の考え方や実施方法について説明できる。

授業計画

回	主題
1	総論　装具・装具療法とは
2	総論　装具の製作工程、装具の分類
3	各論　下肢装具総論
4	各論　金属支柱付短下肢装具１
5	各論　金属支柱付短下肢装具２
6	各論　プラスチック短下肢装具
7	各論　その他の短下肢装具２
8	各論　長下肢装具１
9	各論　長下肢装具２
１０	各論　膝装具
１１	各論　股装具、免荷装具
１２	各論　骨盤帯長下肢装具、対麻痺用装具
１３	各論　ロボットリハビリテーション
１４	各論　事例検討
１５	単位認定試験

履修の認定

定期試験 90%・受講態度とその他を 10%として成績を統合して判定する。

教科書

高田治実：PT・OT ビジュアルテキスト　義肢・装具学　異常とその対応がわかる動画付き　第 1 版，羊土社

参考書

１．　渡邉英夫，他　：脳卒中の下肢装具　第 3 版，医学書院
２．　加倉井周一，他（編）：新編　装具治療マニュアル，医歯薬出版

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
（必）装具療法学Ⅱ （上肢・体幹	1	2	後期	３０	（心身健康科学修士）渡邊　家泰 ＜本校講師＞　理学療法士 〇実務経験者による授業科目

授業概要

各論として医療用装具、体幹 装具、靴型 装具、上肢 装具を取り上げる。なお、本科目は解剖・運動学の知識と、臨床 医学の基本的内容を必要とするため、受講に向けて復習に努めること。臨床 評価実習で求められる「自身で調べる力」、「意見を発信する力」、「コミュニケーション力」を身につけるために、グループ発表、質疑応答の時間を積極的に設ける。

学習目標

１．医療用・体幹 ・靴型 ・上肢 装具の構造を理解する。
２．医療用・体幹 ・靴型 ・上肢 装具の適合判定ができる。
３．装具の種類を知り、傷病に応じた装具の適応を説明できる。
４．能動的に学び、かつ自分の意見を述べられるようになる。

授業計画

回	主　　題
1	各論　医療用装具１（先天性股関節脱臼）
2	各論　医療用装具２（ペルテス病、その他）
3	各論　靴型 装具1
4	各論　靴型 装具２
5	各論　体幹 装具１（基本構造）
6	各論　体幹 装具２（頚椎装具）
7	各論　体幹 装具3（腰仙椎装具）
8	各論　側弯症装具１
9	各論　側弯症装具２
１０	各論　上肢 装具1（総論）
１１	各論　上肢 装具２（指装具）
１２	各論　上肢 装具３（手関節装具）
１３	各論　上肢 装具4（対立・把持装具）
１４	各論　上肢 装具5（肘・肩装具）
１５	単位認定試験

履修の認定

定期試験 60%・グループ発表 40%を統合した成績を判定する。

教科書

高田治実：PT・OT ビジュアルテキスト　義肢 ・装具学　異常とその対応がわかる動画付き　第１版，羊土社

参考書

１．　渡邊英夫，他：脳卒中の下肢 装具　第３版，医学書院
２．　加倉井周一，他：新編　装具治療マニュアル，医歯薬出版

授業科目	単位数	年次	学期	時間数	担当教員
（必）義肢学	1	3	前期	３０	（医博）鶴見　隆正＜非常勤講師＞ 湘南医療大学教授 理学療法士

授業概要

四肢切断のリハビリテーションに必要な知識と技術を学習する。切断原因、切断手技を理解し、急性期からの理学療法、義肢装着訓練について学び、義手、義足の種類、ソケットの特徴、ソケットの適応判定、さらに切断端の評価から断端訓練、アライメント調整、歩行訓練、応用動作訓練等については実習を取り入れながら学習する。

また、義肢処方から義肢完成までの過程、義肢給付制度について理解し、切断者の社会復帰までにおける理学療法士の役割と位置づけについて教授する。

学習目標

１．切断者のリハビリテーションにおける理学療法の位置づけを理解できる。
２．義肢の種類、適応判定、アライメント調整ができる。
３．切断の評価、断端訓練、歩行訓練等の基本的な理学療法を実施できる。

授業計画

回	主題
1	切断のオリエンテーション
2	切断と義肢の歴史・実態
3	切断原因
4	切断術と断端管理
5	大腿義足ソケット
6	大腿義足のアライメント
7	大腿義足の異常歩行
8	膝継手・足継手
9	大腿義足の演習
１０	下腿切断と下腿義足
１１	膝関節離断・サイム切断と股離断
１２	両側下肢切断
１３	下肢切断者の理学療法評価
１４	演習：下肢切断者の理学療法過程
１５	筆記試験と実技試験

履修の認定　試験結果、出席状況、受講態度を総合的に評価

注意事項　義肢に触れながら主体的に講義に取り組むこと。

教科書
1. 切断と義肢　医葉薬出版
2. 標準理学療法学　臨床実習とケーススタディ　医学書院

参考書
1. 義肢装具　理学療法ＭＯＯＫ　三輪書店

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
（必）義肢装具学演習	1	3	後期	１５	小谷　和男＜非常勤講師＞ 義肢装具士・福祉用具専門相談員 (株)小谷義肢

授業概要

1）義肢、装具に関する基本的知識を学ぶとともに、種類と構造、チェックアウト、最新の義肢装具および試装着によりアライメントを理解する。
2）ギプス採型

学習目標

１．装具（上肢、下肢、体幹、靴型）、義足の名称と構造、適応について説明できる。
２．体験模擬装具、義足、義手によりアライメントの理論と実際を習得する。
３．体験模擬装具、義足、義手により装着除去訓練を習得する。
４．ギプス包帯による陰性モデル採型を修得する。

授業計画

回	主　　題	
1	装具学概論	最近のトピックス
2	〃	下肢のアライメント、試歩行
3	〃	短下肢装具の陰性モデル採型
4	〃	短下肢装具の陰性モデル採型
5	義肢学概論	最近のトピックス
6	〃	下肢のアライメント、試歩行
7	〃	大腿義足のソケットリング採型
8	〃	大腿義足のソケットリング採型

履修の認定

実技テスト 50%、レポート 30%、出席状況 10%、授業態度 10%

教科書

配布テキスト

参考書

・義肢学　・装具学　・切断と義肢　・義肢装具のチェックポイント

授業科目	単位数	年次	学期	時間数	担当教員
（必）日常生活活動学Ⅰ（総論）	1	2	前期	３０	（教育学修士）井上　佳和＜本校講師＞ 理学療法士 ○実務経験者による授業科目

授業概要

障害を持つ人が尊厳を持ち自立した生活をおくることはリハビリテーションの目標であるが、そのためには、当然のことながら個々の対象者に適した日常生活活動の評価や指導が必要となる。そこで、この科目では理学療法士が基本動作をどのように評価し、またどのように指導していけばよいのかについて力学的な観点も踏まえ、実習も組み入れながら展開していく。

学習目標

１．日常生活活動の評価のポイントや代表的評価法の特徴を理解する。
２．健常人の基本動作パターンを理解する。
３．脳血管障害などに起因する片麻痺に対する起居移動動作練習の実際を理解し、指導できる。

授業計画

回	主題
1	ＡＤＬの概念と範囲
2	ＡＤＬとＱＯＬ
3	ＡＤＬ評価のポイント
4	できるＡＤＬとしているＡＤＬ
5	ＡＤＬ評価の実際
6	手段的ＡＤＬ、ＱＯＬ評価について
7	基本動作について
8	動作観察の基礎
9	車いす１
１０	車いす２
１１	車いすの採型
１２	片麻痺者のＡＤＬ１
１３	片麻痺者のＡＤＬ２
１４	片麻痺者のＡＤＬ３
１５	定期試験

履修の認定

定期試験・定期試験以外に実施する確認テスト・課題レポート・出席状況・受講態度その他、授業に関わる全てを評価対象とする。

教科書

１．PT・OT ビジュアルテキスト ADL　第１版　柴　喜崇　編　羊土社
２．PT・OT のための臨床技能と OSCE　才藤　栄一　監修　金原出版社

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間	担　当　教　員
（必）日常生活活動学Ⅱ （障害別各論）	1	2	後期	３０	（教育学修士）井上　佳和＜本校講師＞ 理学療法士 ○実務経験者による授業科目

授業概要

障害を持つ人が尊厳を持ち自立した生活をおくることはリハビリテーションの目標であるが、そのためには、当然のことながら個々の対象者に適した日常生活活動の評価や指導が必要となる。この科目では、対麻痺・四肢麻痺者、慢性関節リウマチ者、人工股関節術後のＡＤＬの特性とその指導方法、生活環境の評価とその改善計画について知識を深めていく。

学習目標

１．杖、松葉杖などの補装具について、種類と適応を理解し、適切な調節ができる。
２．生活環境の評価方法とその改善計画についての概要を理解できる。
３．対麻痺者、四肢麻痺者、ＲＡ、ＴＨＲ術後者に対する起居移動動作練習の実際を理解し、指導できる。

授業計画

回	主　　題
1	補装具
2	杖・松葉杖歩行について＜実習＞
3	関節リウマチ者のＡＤＬ１
4	関節リウマチ者のＡＤＬ２
5	人工股関節術後者のＡＤＬ１
6	人工股関節術後者のＡＤＬ２
7	四肢麻痺者のＡＤＬ１
8	四肢麻痺者のＡＤＬ２
9	対麻痺者のＡＤＬ
１０	生活環境の評価１
１１	生活環境の評価２
１２	生活環境の改善計画１
１３	生活環境の改善計画２
１４	神経筋疾患者のＡＤＬ
１５	定期試験

履修の認定

定期試験・定期試験以外に実施する確認テスト・課題レポート・出席状況・受講態度その他、授業に関わる全てを評価対象とする。

教科書

１．PT・OT ビジュアルテキスト ADL　　第１版　柴　喜崇　編　羊土社
２．PT・OT のための臨床技能と OSCE　才藤　栄一　監修　金原出版社

授業科目	単位数	年次	学期	時間数	担当教員
（必）神経障害理学療法学Ⅰ（脳卒中）	1	2	前期	３０	（心身健康科学修士）渡邊　家泰 ＜本校講師＞　理学療法士 〇実務経験者による授業科目

授業概要

本講義では、神経疾患の中でも理学療法の対象となることの多い脳血管障害について、講義する。講義内容は、脳血管障害の病態、障害像、治療方法、理学療法評価法、脳卒中に対する理学療法を説明していく。また、実際の臨床で活かすことができるよう理学療法の実技もできる限り行なっていく。

学習目標

1．脳血管障害の病態分類を説明できる。
2．脳血管障害の障害像を把握できる。
3．脳血管障害の理学療法評価の項目を抽出し、実践できる。
4．脳血管障害の理学療法を説明できる。

授業計画

回	主題
1	神経疾患概論
2	脳血管障害の病態分類
3	脳卒中の障害像①
4	脳卒中の障害像②
5	脳卒中の障害像③
6	脳卒中に対する（内科的・外科的）治療法
7	脳卒中の理学療法評価①
8	脳卒中の理学療法評価②
9	脳卒中の理学療法評価③
１０	高次脳機能障害
１１	脳画像
１２	治療①
１３	治療②
１４	治療③
１５	単位認定試験

履修の認定

授業の授業態度 10%、筆記試験 90%の成績を統合して判定する。

教科書

1．吉尾雅春・森岡周：標準理学療法学　神経理学療法学　第 2 版，医学書院
2．吉尾雅春・阿部浩明：極める！脳卒中リハビリテーション必須スキル，株式会社 gene

参考書

1．神経難病領域のリハビリテーション実践アプローチ　小林哲夫　MEDICAL VIEW
2．病気がみえる vol.7　脳・神経　MEDICAL MEDIA
3．コツさえわかればあなたも読める　リハに役立つ脳画像　大村優慈　MECICAL VIEW
4．ベッドサイドの神経の診かた　改訂 17 版　田崎義昭・他　南山堂
5．イラストによる中枢神経系の理解　第 3 版　杉浦和朗　医歯薬出版株式会社

授業科目	単位数	年次	学期	時間数	担当教員
（必）神経障害理学療法学Ⅱ （神経筋疾患）	1	2	後期	３０	（心身健康科学修士）渡邊　家泰 ＜本校講師＞　理学療 法士 ○実務経験者による授業科目

授業概要

神経障害理学療 法学Ⅰでは、神経疾患の中で理学療 法の対象となる頻度が多い脳血管障害について、その疾患の病態から理学療 法について学習した。本講義はそれに続く科目で、理学療 法士が対象とすることが多い神経疾患のうち、脳卒中以外の疾患を対象に、それらの疾患に対する病態から理学療 法について学ぶことを目的としている。

学習目標

１．神経疾患のイメージをつける。
２．損傷部位によりその症状や理学療 法アプローチが異なることを学ぶ。
３．パーキンソン症候群に対する理学療 法を理解する。
４．運動失調に対する理学療 法を理解する。
５．その他、神経難病に対する理学療 法を理解する。

授業計画

回	主題
1	パーキンソン症候群の病態と症状
2	パーキンソン症候群の理学療 法評価
3	パーキンソン病の理学療 法
4	運動失調症の病態と症状
5	運動失調症と理学療 法評価
6	運動失調症の理学療 法
7	筋萎縮性側索硬化症の病態と症状
8	筋萎縮性側索硬化症の理学療 法
9	多発性硬化症の病態・症状と理学療 法
１０	ギラン･バレー症候群の病態・症状と理学療 法
１１	重症筋無力症の病態・症状と理学療 法
１２	多発性筋炎・皮膚筋炎の病態・症状と理学療 法
１３	理学療 法実技
１４	まとめ
１５	単位認定試験

履修の認定

授業態度 10%、筆記試験 90%の成績を統合して判定する。

教科書

１．標準理学療 法学　神経理学療 法学　吉尾雅春・森岡周 医学書院
２．吉尾雅春・阿部浩明：極める！脳卒中リハビリテーション必須スキル，株式会社 gene

参考書

１．神経難病領域のリハビリテーション実践アプローチ　小林哲夫　MEDICAL VIEW
２．病気がみえる vol.7　脳・神経　MEDICAL MEDIA
３．コツさえわかればあなたも読める　リハに役立つ脳画像　大村優慈　MECICAL VIEW
４．ベッドサイドの神経の診かた　改訂 17 版　田崎義昭・他　南山堂
５．イラストによる中枢神経系の理解　第 3 版　杉浦和朗　医歯薬出版株式会社

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
（必）神経障害理学療法学Ⅲ （脊髄損傷）	1	3	前期	３０	（学術修士）宮本　祥子＜本校講師＞ 理学療法士 ○実務経験者による授業科目

授業概要

中枢性運動麻痺をきたす代表的な傷病である脊髄損傷の病態、評価、理学療法を理解することを目的とする。本科目では、外傷性脊髄損傷による完全横断損傷を中心に授業を展開する。

なお、授業の進行速度は学生の理解度に応じて調整するため、補講を行うことがある。

学習目標

１．脊髄の解剖を理解する。
２．脊髄損傷の障害発生機構、症状を述べることができる。
３．脊髄損傷の合併症の病態と医学的管理を理解し、理学療法場面での管理法を述べることができる。
４．脊髄損傷の理学療法評価、治療訓練を考えることができる。

授業計画

回	主　　題
1	脊椎、脊髄の解剖
2	脊髄損傷の原因・診断と予後判定
3	脊髄不全損傷の特殊型、完全損傷の症状の概説
4	運動機能障害(1)
5	運動機能障害(2)
6	感覚機能障害
7	１～６回のまとめ（試験）
8	自律神経障害
9	正常の排尿機構
１０	脊髄損傷の排尿機構、排尿管理(1)
１１	脊髄損傷の排尿機構、排尿管理(2)
１２	急性期から回復初期の理学療法
１３	回復中期から後期における理学療法
１４	理学療法評価、合併症（褥瘡、異所性骨化など）
１５	試験

履修の認定

筆記試験（中間・期末）筆記試験 90%、出席状況と受講状況(課題の提出を含む)10%

教科書

１．PT マニュアル　脊髄損傷の理学療法　第３版　武田功編集　医歯薬出版　2017

参考書

１．脊髄損傷リハビリテーションマニュアル　第３版　神奈川リハビリテーション病院脊髄損傷リハビリテーションマニュアル編集委員会　医学書院 2019
２．脊髄損傷理学療法マニュアル　第３版　岩﨑洋編集　文光堂　2020
３．頚髄損傷のリハビリテーション　改訂第３版　二瓶隆一・木村哲彦　他　協同医書 2016

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
（必）発達障害理学療法学	1	3	後期	３０	（学術修士）宮本　祥子＜本校講師＞ 理学療法士 ○実務経験者による授業科目

授業概要

最初に乳児の正常運動発達から、成熟した個体の行動様式の獲得のされ方を理解する。その後正常運動発達を基盤とし、脳性麻痺の運動障害・理学療法を学ぶ。そして授業終盤には、理学療法で治療対象となることが多い、脳性麻痺以外の小児疾患についても学ぶこととする。

また、授業全般にわたって小児理学療法の特殊性と療育の理念を理解する。

学習目標

１．正常乳児の運動発達の流れを述べることができる。
２．脳性麻痺の類型別に問題点と治療原則を述べることができる。
３．脳性麻痺を中心とした肢体不自由児のリハビリテーションの流れを述べることができる。

授業計画

回	主　　題
1	小児の成長
2	乳児の運動発達　０～３ヶ月
3	乳児の運動発達　３～６ヶ月
4	乳児の運動発達　６～９ヶ月
5	乳児の運動発達　９～１２ヶ月
6	幼児の発達
7	反射・反応検査
8	脳性麻痺の定義、症状、病型分類
9	痙直型の子供の問題点と治療
１０	アテトーゼ型の子供の問題点と治療
１１	脳性麻痺の子供の日常生活での指導のしかた
１２	脳性麻痺の手術療法と補装具療法、合併障害、理学療法評価
１３	小児神経筋疾患の理学療法
１４	二分脊椎症、ダウン症候群の理学療法、発達障害と DCD
１５	試験

履修の認定

筆記試験 90%、出席状況と受講状況(課題の提出を含む)10%

教科書

1. シンプル理学療法シリーズ　小児理学療法学テキスト　改訂第３版　細田多穂監修
   南江堂 2018
2. 乳児の発達―写真でみる０歳児　高橋孝文監訳　医歯薬出版 1997

参考書

1. 脳性まひ児の家庭療育　第４版　Eva Bower　医歯薬出版　2014
2. 正常発達 脳性まひ治療への応用　Jung Sun Hong　三輪書店　2010
3. 発達性協調運動障害[DCD]：不器用さのある子どもの理解と支援 辻井正次・他監修　金子書房　2019

授業科目	単位数	年次	学期	時間数	担当教員
（必）運動器障害理学療法学Ⅰ（下肢）	1	2	前期	３０	（医博）奥田　教宏 ＜本校講師＞ 理学療法士 ○実務経験者による授業科目

授業概要

運動器障害理学療法学は２年次から３年次にかけて履修するが、ここでは理学療法の対象として多い骨折、変形性関節症について取りあげていく。また、これらの疾患に対する病態や整形外科的な検査方法や治療方法を解説するとともに理学療法評価やプログラムについて、実技も行いながら理解を深めていく。

学習目標

１．運動器障害理学療法に必要な整形外科疾患の概要を理解する。
２．整形外科疾患の病態と整形外科治療の内容を把握する。
３．整形外科疾患に対する理学療法評価とプログラム・実技について理解する。

授業計画

回	主題
1	骨の構造と働き・骨折の整形外科
2	骨折の整形外科治療
3	骨折の障害像
4	骨折の理学療法評価
5	骨折の理学療法治療
6	高齢者による骨折の理学療法(大腿骨頸部骨折中心)
7	骨折の理学療法実技
8	変形性関節症の整形外科学
9	変形性股関節症の障害構造と理学療法評価
１０	変形性股関節症の理学療法治療
１１	変形性膝関節症の障害構造と理学療法評価
１２	変形性膝関節症の理学療法治療
１３	変形性関節症の理学療法実技
１４	まとめ
１５	単位認定試験

履修の認定

筆記試験の成績

教科書

１．整形外科リハビリテーション　神野哲也監修　羊土社
２．運動療法に役立つ 単純Ｘ線像の読み方　青木隆明監修　MEDICAL VIEW

参考書

１．ここがポイント！整形外科疾患の理学療法　冨士武史監修
２．結果の出せる整形外科理学療法 運動連鎖から全身をみる 山口光圀・他著　MEDICAL VIEW
３．術後理学療法プログラム　島田洋一・他編　MEDICAL VIEW
４．運動器障害理学療法学テキスト　細田多穂・他　南江堂

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
（必）運動器障害理学療法学Ⅱ（上肢）	1	2	後期	３０	（医博）奥田　教宏 ＜本校講師＞ 理学療法士 ○実務経験者による授業科目

授業概要

運動器障害理学療法学Ⅰに引き続き、理学療法の対象となる代表的な整形外科疾患に対する理学療法を学習する。講義は、教科書・講義プリントを中心に進めていく。

ここでは、肩関節疾患（肩関節周囲炎・腱板断裂）、末梢神経損傷を取り上げ、これらの疾患に対する基礎的学習や理学療法評価、理学療法プログラムについて実技も含めて理解を深めていく。

学習目標

１．運動器障害理学療法に必要な整形外科疾患の概要を理解する。
２．整形外科疾患の病態と整形外科治療の内容を把握する。
３．整形外科疾患に対する理学療法評価とプログラム立案・実技を理解する。

授業計画

回	主　　題
1	肩関節の基礎
2	肩関節周囲炎の整形外科学
3	肩関節周囲炎の理学療法評価・治療
4	腱板断裂の理学療法評価・治療
5	腱板断裂の理学療法評価・治療②
6	肩関節周囲炎・腱板断裂の理学療法実技
7	肩関節疾患のケーススタディ
8	末梢神経の構造と機能
9	末梢神経損傷の整形外科学
１０	末梢神経損傷の障害構造
１１	末梢神経損傷の理学療法評価
１２	末梢神経損傷の理学療法治療
１３	末梢神経損傷の理学療法実技
１４	まとめ
１５	単位認定試験

履修の認定

筆記試験の成績

教科書

１．整形外科リハビリテーション　神野哲也監修　羊土社
２．運動療法に役立つ 単純Ｘ線像の読み方　青木隆明監修　MEDICAL VIEW

参考書

１．ここがポイント！整形外科疾患の理学療法　冨士武史監修
２．結果の出せる整形外科理学療法 運動連鎖から全身をみる 山口光圀・他著　MEDICAL VIEW
３．術後理学療法プログラム　島田洋一・他編　MEDICAL VIEW
４．運動器障害理学療法学テキスト　細田多穂・他　南江堂

授業科目	単位数	年次	学期	時間数	担当教員
（必）運動器障害理学療法学Ⅲ（体幹）	1	3	前期	３０	（医博）奥田　教宏 ＜本校講師＞ 理学療法士 ○実務経験者による授業科目

授業概要

運動器障害理学療法Ⅱに引き続き、理学療法の対象となる代表的な整形外科疾患に対する理学療法を学習する。講義は、教科書・講義プリントを中心にできるだけ動画を利用しながら進めていく。

ここでは、腰痛症（腰椎椎間板ヘルニアなど）、頚椎疾患（頚椎捻挫など）、関節リウマチを取り上げ、これらの疾患に対する理学療法評価やプログラムを実技も含めて理解を深める。

学習目標

1．運動器障害理学療法に必要な整形外科疾患の概要を理解する。
2．整形外科疾患の病態と整形外科治療の内容を把握する。
3．整形外科疾患に対する理学療法評価とプログラム立案・実技を理解する。

授業計画

回	主題
1	腰痛症の病態
2	腰痛症の原因となる主な疾患
3	腰痛症の理学療法評価
4	腰痛症の理学療法治療
5	腰痛症に対する実技
6	頚椎疾患（頚椎捻挫）の病態・整形外科
7	頚椎疾患（頚肩腕症候群）の病態・整形外科
8	頚椎疾患（胸郭出口症候群）の病態・整形外科
9	頚椎疾患の理学療法評価
１０	頚椎疾患の理学療法治療
１１	頚椎疾患に対する実技
１２	関節リウマチの病態・診断・治療
１３	関節リウマチの理学療法評価
１４	関節リウマチの理学療法治療
１５	単位認定試験

履修の認定

筆記試験の成績

教科書

1．整形外科リハビリテーション　神野哲也監修　羊土社
2．運動療法に役立つ 単純Ｘ線像の読み方　青木隆明監修　MEDICAL VIEW

参考書

1．ここがポイント！整形外科疾患の理学療法　冨士武史監修
2．結果の出せる整形外科理学療法　運動連鎖から全身をみる　山口光圀・他著　MEDICAL VIEW
3．術後理学療法プログラム　島田洋一・他編　MEDICAL VIEW
4．標準理学療法学　骨関節理学療法学　吉尾雅治・他　医学書院

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　　当　　教　　員
（必）スポーツ理学療法学	1	3	後期	３０	（医博）森本　哲郎＜非常勤講師＞ もりもと整形外科内科 山田　義久＜非常勤講師＞ もりもと整形外科内科 理学療法士 （医博）竹林　秀晃＜本校講師＞ 理学療法士　　他

授業概要

整形外科学や運動器障害理学療法を背景に、スポーツ理学療法の対象となる代表的な整形外科疾患に対する理学療法を学習する。講義は、教科書・講義プリントを中心に動画・スライド・実技等を利用しながら進めていく。

スポーツ傷害の理学療法に対する理学療法評価やプログラムだけでなく、パフォーマンス向上のためのバイオメカニクスや運動制御・運動学習理論なども含めて理解を深める。

学習目標

１.スポーツ理学療法に必要な整形外科疾患の概要を理解する。
２.スポーツ傷害の病態と整形外科治療の内容を把握する。
３.スポーツ傷害に対する理学療法評価とプログラム立案・実技を理解する。
４.スポーツパフォーマンス向上のための理論を理解する。

授業計画

回	主　　題
1	スポーツ整形外科・理学療法の総論
2	スポーツ理学療法の実際
3	スポーツ傷害に対するアプローチ（テーピングなど）
4	スポーツ傷害に対するアプローチ
5	スポーツ傷害Ⅰ（膝靱帯損傷）
6	スポーツ傷害Ⅱ（半月板損傷）
7	スポーツ傷害Ⅲ（足関節捻挫・アキレス腱断裂）
8	スポーツ傷害Ⅳ（上肢の傷害　その他の傷害）
9	スポーツ傷害の理学療法に関する実技
１０	スポーツ傷害のケーススステディ
１１	スポーツパフォーマンス向上の運動理論
１２	スポーツバイオメカニクス
１３	スポーツ栄養学
１４	まとめ
１５	筆記試験

履修の認定

筆記試験（90%）・講義中の課題（10%）

教科書

１.整形外科リハビリテーション　神谷哲也監修　2012
２．運動療法に役立つ 単純Ｘ線像の読み方　青木明監修　MEDICAL VIEW　2011
３．標準整形外科学　第11版　広畑和志監修　医学書院　2008

参考書

１．標準理学療法学　骨関節理学療法学　吉尾雅治・他　医学書院　2012
２．結果の出せる整形外科理学療法　運動連鎖から全身をみる　山口光圀・他著　MEDICAL VIEW 2009

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　　当　　教　　員
（必）内部障害理学療法学Ⅰ （呼吸）	1	3	前期	３０	（保健学博士）宅間　豊＜本校講師＞ 理学療法士 ○実務経験による授業科目

授業概要

呼吸系・循環系・筋代謝系の調和システムを基盤に慢性呼吸器疾患の障害構造を解説する。そして、その上で適用する評価法と理学療法を理解し、指向性をもった検査測定や治療および援助が行えるように専門的知識と技術を修得する。

学習目標

１．病態の理解に必要な医学的基礎知識を獲得できる。
２．障害構造を理解できるとともに評価の意義と方法を説明できる。
３．呼吸器疾患に対する理学療法の目的と方法を説明できる。

授業計画

回	主　　題
1	呼吸器系の構造と機能１
2	呼吸器系の構造と機能２
3	呼吸器系の構造と機能３
4	中間試験
5	慢性呼吸器疾患の障害構造
6	呼吸理学療法のための評価１
7	呼吸理学療法のための評価２
8	呼吸理学療法のための評価３
9	呼吸理学療法のための評価４
１０	呼吸理学療法（基本手技１）
１１	呼吸理学療法（基本手技２）
１２	呼吸理学療法（基本手技３）
１３	呼吸理学療法（基本手技４）
１４	呼吸理学療法（基本手技５）
１５	定期試験

履修の認定

中間および定期試験成績により認定する。

教科書

１．動画で分かる呼吸リハビリテーション　高橋仁美・他（編）　中山書店
２．配付プリント

参考書

１．リハ実践テクニック呼吸ケア　塩谷隆信・高橋仁美（編）　メジカルビュー社
２．理学療法テキスト内部障害理学療法学　呼吸　石川朗・玉木彰（編）　中山書店

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
（必）内部障害理学療法学Ⅱ （循環）	1	3	前期	３０	（医博）大重　匡〈非常勤講師〉 鹿児島大学医学部　教授 理学療法士・臨床工学技士 前田　秀博先生 近森病院 理学療法士 （医科学修士）近藤　寛＜本校講師＞ 理学療法士

授業概要

高齢化が進んでいる現在、理学療法の対象者も高齢者が増加している。高齢者の多くは不整脈を合併し、また既往歴に心筋梗塞や狭心症、末梢循環障害などを有する場合がある。理学療法士が運動療法を施行する際、運動療法施行時に出現する不整脈や症状を判読することはリスク管理の上で非常に重要である。本講義は、心電図の基本から正常 12 誘導心電図の波形の成り立ち、そして臨床場面で理解しておくべき不整脈の波形について教授したのち、急性期と回復期の心筋梗塞の理学療法について教授する。また、臨床における心疾患患者の対する最新のリハビリテーションの内容や末梢循環障害の基礎や評価・治療について説明する。

学習目標

１．基本的な内科疾患の病態を理解できる。
２．内部障害に対する評価・理学療法について理解できる。

授業計画

回	主　　題
1	心臓の解剖と生理
2	刺激伝導系について
3	正常心電図（心電図の波形と名称）
4	正常心電図（肢誘導と胸部誘導）
5	不整脈の心電図（頻脈・徐脈・期外収縮）
6	不整脈の心電図（房室ブロック・心室内伝導障害・心房細動など）
7	心筋梗塞の理学療法（心筋梗塞の病態）
8	心筋梗塞の理学療法（理学療法の実際）
9	運動負荷試験について
１０	心筋梗塞の理学療法（回復期の理学療法）
１１	心不全のリハビリテーション（臨床の前線）①
１２	心不全のリハビリテーション（臨床の前線）②
１３	末梢循環障害の基礎
１４	抹消循環障害の評価・治療
１５	定期試験

履修の認定

出席状況と試験結果とを総合的に判定する。

教科書

１.内部障害理学療法学テキスト　細田　多穂　監修　南江堂

参考書

１.講義の際に適宜資料を配布する。

授業科目	単位数	年次	学期	時間数	担当教員
(必) 内部障害理学療法学Ⅲ (代謝・腎・がん)	1	3	後期	30	(医科学修士) 近藤　寛<本校講師> 理学療法士 ○実務経験者による授業科目

授業概要

内部障害とは、心臓、呼吸、腎尿路、消化など内部機能障害の総称と定義されている。そのうち、内部障害理学療法学Ⅲでは、代謝、腎臓、糖尿病、がんに関する概論や理学療法について講義する。これらの疾患についての評価・治療の選択に当たっては、病態理解が必要不可欠となり、その部分も含めて内容を展開する。

学習目標

1．基本的な内科疾患の病態を理解できる。
2．内部障害に対する評価・理学療法について理解できる。

授業計画

回	主題
1	糖尿病とは・糖尿病の診断と分類
2	糖尿病の検査と合併症
3	糖尿病の治療
4	糖尿病に対する理学療法（評価）
5	糖尿病に対する理学療法（治療）
6	運動と代謝①
7	運動と代謝②
8	腎機能障害の理解（腎臓の機能や役割・診断・分類）
9	腎機能障害の理解（疾患）
10	腎機能障害の理学療法（評価・治療）
11	がんとは・がんの診断と分類
12	がんのリハビリテーション（疾患）
13	がんのリハビリテーション（評価・治療）
14	まとめ
15	定期試験

履修の認定

出席状況と試験結果とを総合的に判定する。

教科書

1．内部障害理学療法学テキスト　細田　多穂　監修　南江堂

参考書

1．講義の際に適宜資料を配布する。

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　　当　　教　　員
（必）医療機器概論	1	1	後期	３０	細田　里南＜非常勤講師＞ 田中　健太郎＜非常勤講師＞ （教育学修士）岡部　孝生＜本校講師＞ 理学療法士

授業概要

医療機器とは、病気や怪我を診断したり、治療や予防したりするときに使われる機器の総称です。医療行為を行う場合、必ずと言っていいほど使用されるものです。病気や怪我の種類や状態によって使用する医療機器は異なります。そのため医療機器には、かなり多くの種類が存在します。本講義では、まずその種類の多さについて学んでいただきます。その上で、理学療法士がかかわる事が多い代表的な医療機器について、その種類と基本的な仕組み、目的について学んでいただきます。さらに、理学療法士として各種医療機器の知識や使用方法を学ぶ必要性について学んでいただきます。

授業概要

医療機器とは、病気や怪我を診断したり、治療や予防したりするときに使われる機器の総称です。医療行為を行う場合には、ほぼ必ず使用されます。病気や怪我の種類や状態により使用される医療機器が異なるため、医療機器には非常に多くの種類が存在します。本講義では、まずその種類について学んでいただきます。その上で、理学療法士がかかわる事が多い代表的な医療機器について、その種類と基本的な仕組み、目的について学んでいただきます。さらに、理学療法士として各種医療機器の知識や使用方法を学ぶ必要性について学んでいただきます。

学習目標

１.医療機器の種類が理解できる。
２.各々の機器の基本的な仕組みや目的が理解できる。
３.理学療法士として医療機器を学ぶ必要性が理解できる。

授業計画

回	主　　題
1	医療機器概論
2	新生児集中治療に関与する医療機器について
3	呼吸器疾患に関与する医療機器について①
4	呼吸器疾患に関与する医療機器について②
5	循環器疾患に関与する医療機器について①
6	循環器疾患に関与する医療機器について②
7	運動器疾患に関与する医療機器について①
8	運動器疾患に関与する医療機器について②

履修の認定

提出物（70%）、受講態度（30%）

教科書

配布資料

参考書

適宜紹介します。

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　　当　　教　　員
（必）理学療法技術論 （熱傷・褥瘡含む）	1	3	前期	３０	宮本　省三＜非常勤講師＞ 高知医療学院　理学療法士 近藤　寛＜本校講師＞理学療法士 他 ○実務経験者による授業科目

授業概要

この科目では外部より招聘した講師と本校の講師が、運動療法を中心とする理学療法の理論や技術の教授、また理学療法関連領域の知識・技術についての教授をおこなう。

学習目標

授業計画に示すテーマに関しての理論と技術を修得することができる。

授業計画

回	主　　題
1	最近の運動療法の動向(1)～(2)　宮本省三
2	〃
3	最近の運動療法の動向(3)～(4)園田義顕
4	〃
5	関節可動障害の評価と理学療法アプローチ　大畑剛
6	〃
7	〃
8	〃
9	ノーリフトケア・ノーリフティングケアの理論と実際　加賀野井博美
１０	〃
１１	PNF の理論と実際　上田康裕
１２	〃
１３	熱傷の評価と理学療法アプローチ　近藤　寛
１４	〃
１５	まとめ

履修の認定

課題レポート２題　100％

注意事項

同一日に数回分の授業をまとめて開講するので欠席には注意すること。
各テーマにより、準備するものが異なるため掲示に従うこと。

教科書

配布資料

授業科目	単位数	年次	学期	時間数	担当教員
（必）理学療法特論Ⅰ （臨床思考）	1	3	前期	15	（医博）川村　博文＜非常勤講師＞ 甲南女子大学教授　理学療法士

授業概要

理学療法特論Ⅰ（臨床思考）では、日本および世界の理学療法（士）の変遷を教授し、理論と実際の検証を行うことで、理学療法の理論と基本手技の概略を解説する。特にはICFでの問題点の捉え方の骨組みである活動と心身機能・身体構造および参加の意義と重要性について理解を深める。

さらに、評価の意義、評価の統合と解釈の意味、抽出された問題点の価値、予後推定に基づく目標（短期・長期）の明確な設定、問題点対応型の理学療法などの留意点は、各種疾患を通して教授し、臨床推論能力を高め、臨床現場で活躍できる力の構築に繋げていくこととする。

学習目標

1．理学療法の変遷（課題と展望）を学び、各理学療法の理論と実際を検証し、理解できる。
2．各疾患でのICFに基づく評価、評価の統合と解釈、問題の抽出、目標、治療を設定できる。

授業計画

回	主題
1	オリエンテーション、日本および世界の理学療法変遷と理学療法の検証
2	理学療法の検証
3	理学療法を実践する上でのICFの理解
4	各疾患の評価・評価の統合と解釈・問題の抽出・目標・治療設定
5	疼痛と疼痛に対する理学療法の実際
6	関節可動域制限（拘縮・強直）に対する理学療法の実際
7	筋力弱化に対する理学療法の実際
8	定期試験

履修の認定

出席状況と試験結果とを総合的に判定する。

教科書

1．臨床実習とケーススタディ、鶴見隆正・辻下守弘編集、医学書院

参考書

1．理学療法のルーツ　その継承と新たな創造のために、武富由雄著、メディカルプレス
2．講義の際に適宜資料を配布する。

授業科目	単位数	年次	学期	時間数	担当教員
（必）理学療法特論Ⅱ （症例検討）	1	3	後期	１５	（医博）奥田　教宏 ＜本校講師＞ 理学療法士 ○実務経験者による授業科目

授業概要

本科目では、これまで 1 年次～3 年次までの講義で学習してきた内容に対し模擬症例を通して、より実践的なに必要なスキル向上を目的とした講義を行う。模擬症例を提示し個人およびグループワークで問題点を考え、さらに治療プログラムを検討し議論していきたい。対象者の入院状況や生活場所、ニーズ、社会背景や利用可能な社会資源の把握など、対象者を一生活者としてとらえる視点を学び、ディスカッションを通してよりよい方策を導き出せるよう講義を行う。

学習目標

1．模擬症例を通して、問題点・治療を立案できるようになる。
2．入院時リハと在宅時リハの考え方の違いについて整理する。

授業計画

回	主題
1	症例検討（大腿骨頸部骨折症例　～評価項目の検討～）
2	症例検討（大腿骨頸部骨折症例　～問題点と治療目標の検討～）
3	症例検討（大腿骨頸部骨折症例　～プログラムの検討～）
4	症例検討（脳卒中症例①　～評価項目の検討～）
5	症例検討（脳卒中症例①　～問題点と治療目標の検討～）
6	症例検討（脳卒中症例①　～プログラムの検討～）
7	症例検討（脳卒中症例②　～評価項目・問題点の検討～）
8	症例検討（脳卒中症例②　～治療目標とプログラム～）

履修の認定

課題提出内容により成績をつける。

教科書

配布プリント

参考書

1．ケースで学ぶ理学療法臨床思考　基本編　有馬慶美・他　文光堂
2．臨床実習とケーススタディ　鶴見隆正・他　医学書院
3．ＰＴ・ＯＴのための臨床技能とＯＳＣＥ　コミュニケーションと介助・検査測定編　才藤栄一・他　金原出版
4．ＰＴ・ＯＴのための臨床技能とＯＳＣＥ　機能障害・能力低下への介入編　才藤栄一・他　金原出版

授業科目	単位数	年次	学期	時間数	担当教員
(必) 理学療法特論Ⅲ (理学療法ﾄﾋﾟｯｸｽ)	1	4	後期	３０	理学療法学科本校講師 他

授業概要

臨床総合実習で培った専門的能力を基に、種々の分野における理学療法の実際や関連する医療・保健・福祉についての学術的見聞を広め、理学療法を様々な視点から考える。学外より講師を招いて開講する。

学習目標

将来の理学療法士として必要な事柄について見聞を広めることができるとともに、専門職としての立脚点を考察することができる。

履修の認定

課題レポート２題 100%

教科書

配布資料

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
（必）地域リハビリテーション学	1	3	前期	３０	医学（博士）滝本幸治＜非常勤講師＞ 奈良学園大学講師　理学療法士 （教育学修士）井上佳和＜本校講師＞ 理学療法士 ○実務経験者による授業科目

授業概要

昨今、理学療法士の職域は拡大し、医療分野のみならず保健・福祉領域における貢献が求められている。加えて、理学療法士の活躍の場は医療施設に留まらず、高齢者施設や在宅で生活する高齢者や身体に障害を有している者、肢体不自由児など対象や貢献の場は拡がりをみせている。そのため、理学療法士として地域リハビリテーションの概年とその活動について理解することは大変重要である。

本講義では、前半に本邦の高齢社会における現状・課題等を把握するとともに、地域リハビリテーションに関する制度・役割・手法等について理解することを目的に講義を展開する。また後半では、在宅での生活支援時に欠かすことのできない生活環境の調整についての基本的知識について理解することを目標に講義を展開する。

学習目標

１．地域リハビリテーションの定義を理解する。
２．地域および対象者のアセスメント手法について理解する。
３．地域リハビリテーションに関する諸制度を理解する。
４．地域リハビリテーション活動の手法と展開を知る。
５．生活環境調整の基本的知識について理解する。

授業計画

回	主　　題
1	地域リハビリテーション概論（定義と現状）
2	疾病モデルと地域リハビリテーションの位置づけ
3	老化と廃用
4	地域および対象者のアセスメント①
5	地域および対象者のアセスメント②
6	地域リハビリテーションの諸制度
7	地域リハビリテーション活動支援事業
8	地域リハビリテーション活動の課題と展望
9	高齢者・障害者と福祉住環境整備
１０	本邦の福祉住環境について
１１	福祉住環境整備の基本技術
１２	高齢者・障害者の身体機能特性
１３	生活行為別福祉住環境整備の方法
１４	福祉住環境整備の実践
１５	福祉用具
１６	定期試験

履修の認定

筆記試験、レポート課題、出席状況

教科書

１．ユーキャン福祉住環境試験研究会（編）：福祉住環境コーディネーター速習レッスン，ユーキャン（予定）

講義用冊子、資料を配布する。

参考書

１．重森健太・横井賀津志（編）：地域リハビリテーション学第 2 版，羊土社：2019 年
２．細田多穂（監）：地域リハビリテーション学テキスト改訂第 3 版，南江堂：2018 年
３．河野　眞（編）：地域包括リハビリテーション実践マニュアル，羊土社：2018 年

授業科目	単位数	年次	学期	時間数	担当教員
（必）地域リハビリテーション演習	1	3	前期	１５	（医科学修士）近藤　寛＜本校講師＞ 理学療法士 ○実務経験者による授業科目

授業概要

同時期の開講科目である地域リハビリテーション学で学習する内容を基に、地域における保健・医療・福祉サービスの理解を深める。そこで、地域の施設などに出向いて地域課題や対策についてインタビューを行い、実際に理学療法士のどのような専門的知識・技術が活用できるのかを考え、実践できるようにする。演習では、見学やサービス活動への参加を通して参加者と交流を深め、どのようなニーズの下でサービスが展開されているのかを知ること、どのような課題があるのかをとらえることが重要である。

学習目標

１．身近にある地域リハビリテーション活動を知る。
２．参加者と適切に交流することができる。
３．インタビューや演習を通して地域リハビリテーション活動の実際を知る。
４．高齢者のリスク管理、評価方法を知り実践できる。
５．地域リハビリテーション活動における理学療法士の役割と課題を知る。

授業計画

回	主題
1	地域におけるリハビリテーションのニーズと課題
2	高齢者の包括的能力評価方法
3	地域リハに関わるテーマごとの発表資料作成
4	地域リハに関わる各テーマについて発表　①
5	地域リハに関わる各テーマについて発表　②
6	地域老人会交流会にむけて
7	地域老人会交流会　①
8	地域老人会交流会　②
9	地域老人会交流会　③
１０	まとめ

＊地域老人会交流会は３グループに分かれて、各グループで１回体験する

履修の認定

出席状況、演習実施状況、レポート提出、課題発表

留意事項

本講義は、視聴覚教材を用いた討議を行うとともに、近隣事業所等にて学外演習を行う。
挨拶や服装など接遇に関して特に留意すること。

教科書

必要に応じて資料を配布する。

参考書

１．重森健太（編）：地域リハビリテーション学 第２版，羊土社：2019
２．大田仁史（編）：地域リハビリテーション原論 Ver.7，医歯薬出版：2020
３．牧迫飛雄馬，吉松竜貴（編）：地域理学療法学（最新理学療法学講座），医歯薬出版：2021

授業科目	単位数	年次	学期	時間数	担当教員
（必）地域理学療法学	1	3	後期	３０	吉良健司＜本校非常勤講師＞ 訪問看護ドリームチーム 理学療法士　他

授業概要

地域リハビリテーション活動において理学療法士が担う職責や期待は大きいが、期待に応えるためには実践能力が求められる。地域理学療法学では、地域リハビリテーション活動において理学療法士が実際にどのように活動を展開するのかについて、活動場面別に解説する。

また、2025 年の地域包括ケアシステムの構築に向けた理学療法士の貢献が期待されていることから、今後のトレンドを読みながら講義を展開する。同時に、地域課題を把握しそれに応えるために必要な知識や視点が得られるよう講義を進める。

学習目標

１．地域理学療法について理解を深め、説明することができる。
２．地域理学療法の展開場面・実施方法を知る。
３．地域理学療法で必要な視点と専門機関・職種を知る。
４．多職種連携を通して、他職種の役割や自身の専門職としての強みを理解する。

授業計画

回	主題
1	地域理学療法概論
2	医療保険・介護保険制度における理学療法とその役割
3	当事者における地域生活の実態
4	訪問リハビリテーション
5	通所リハビリテーション
6	地域包括ケアシステムについて
7	訪問看護
8	産業理学療法
9	放課後等デイサービス
１０	予防理学療法
１１	就労支援事業
１２	行政における理学療法
１３	多種職連携カンファレンス①
１４	多種職連携カンファレンス②
１５	多種職連携カンファレンス③

履修の認定

レポート課題、出席状況

教科書

講義用冊子、資料プリントを配布する。

参考書

１．重森健太（編）：地域理学療法学第 1 版，羊土社：2015 年
２．浅川育世（編）：地域理学療法学第 2 版，医歯薬出版：2015 年
３．細田多穂（監）：生活環境学テキスト，南江堂：2016 年
４．鶴見隆正，他：現場から学ぶ自立支援のための住宅改修，医学書院：2007 年

授業科目	単位数	年次	学期	時間数	担当教員
（必）見学実習Ⅰ	1	1	後期	４５	理学療法学科本校講師

授業概要

１年次に医療機関における１週間の臨床見学実習（施設実習）を行う。前期で学んだ基礎学習をもとに臨床現場の見学を通して理学療法士の役割や対象を把握し、理解する。また、社会人・専門職としてのマナーを身につける。早期に臨床現場を体験することでその後の学習の動機づけにつなげることを目的とする。

学習目標

１．臨床現場における理学療法士の役割や流れを理解する。
２．対象者と円滑なコミュニケーションがとれるように工夫する。
３．理学療法士と関わる他の関連職種について役割・専門性を理解する。
４．社会人・将来の理学療法士にふさわしい態度を身につけることができる。

授業計画

実習期間
臨床見学実習：後期期間中に計１週間の臨床見学実習（施設実習）を実施 臨床見学実習終了後に実習を通して学んだことについて報告会を実施

履修の認定

臨床見学実習（施設実習） 50%
臨床実習ポートフォリオ 25%
臨床見学実習（施設実習）後 報告会 25%

教科書等

臨床見学実習の手引き
臨床実習教育の手引き　第６版　日本理学療法士協会　2020

授業科目	単位数	年次	学期	時間数	担当教員
（必）見学実習Ⅱ	1	4	後期	４５	理学療法学科本校講師

授業概要

4年次に訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション施設にて1週間の実習を行う。地域理学療法場面での経験を通して、地域包括ケアシステムにおける理学療法士の専門性と役割および責務を理解する。また、地域包括ケアシステムに関与する関連専門職種の役割も理解する。加えて、介護保険制度などについても理解を深めることが目標である。

学習目標

1．対象者（および家族）の生活特性やニーズを理解し、適切なコミュニケーションがとれる。
2．各事業所で提供しているサービス内容の特徴が理解できる。
3．理学療法士および他職種の業務内容と役割が理解できる。
4．地域における他職種との連携が理解できる。
5．関係する保険制度（医療保険制度、介護保険制度など）について調べ示すことができる。

授業計画

実習期間
臨床見学実習：臨床総合実習Ⅱの終了後、計1週間の見学実習を実施 実習終了後に実習内容の報告と検討を行うグループ討論会を実施

履修の認定

施設実習の取り組み 50%、臨床実習ポートフォリオ 30%、見学後グループ討論会 20%

教科書等

臨床見学実習の手引き
臨床実習教育の手引き　第6版　日本理学療法士協会　2020

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
（必）臨床評価実習	3	2	後期	１３５	理学療法学科本校講師

授業概要

２年次に医療機関もしくは福祉施設における３週間の実習を行う。理学療法士として必要な情報の収集から障害像の把握、そして問題点の抽出までを範囲とする。この実習を通して理学療法評価のプロセスと基本的評価技術を系統的かつ段階的に経験し、障害評価の基本的理解と実践力を身につける。

学習目標

１．理学療法評価の流れを理解することができる。
２．評価計画を立案し、それを実施できる。
３．障害像を把握し、それを基に問題点を抽出できる。
４．将来の理学療法士にふさわしい態度を身につけることができる。

授業計画

実　習　期　間	
令和５年１１月２７日（月）～１２月１６日（土）	臨床評価実習
令和５年１２月２０日（水）～１２月２２日（金）	成果報告会　等

履修の認定

施設実習　60%
臨床実習ポートフォリオ 10%
成果報告会 20%
成果報告会資料 10%

教科書

臨床実習の手引き

参考書等

臨床実習教育の手引き　第６版　日本理学療法士協会　2020

授業科目	単位数	年次	学期	時間数	担当教員
（必）臨床総合実習Ⅰ	7	3	後期	３１５	理学療法学科本校講師

授業概要

治療技術習得のための臨床実習の３年次開講分である。医療機関もしくは福祉施設における７週間の実習を１回行う。学内外で修得した知識と技術を、実習の対象者に応用し、将来理学療法士として対象者に接する際に必要な基本的知識・技術・態度を身につける。

学習目標

１．基本的な理学療法評価の実践から統合と解釈、問題点の抽出をおこなうことができる。
２．基本的な理学療法治療手技・指導を体験し実践することができる。
３．臨床総合実習Ⅱに向け理学療法プロセスの展開について経験を積み実践することができる。
４．専門職として適切な態度と習慣を身につけることができる。

授業計画

実習期間
令和６年１月８日（月）～２月２６日（土）　臨床総合実習Ⅰ 令和６年３月４日（月）～３月８日（金）　成果報告会　等

履修の認定

臨床実習指導者の評価 60%
臨床実習ポートフォリオ 10%
成果報告会 15%
成果報告会資料 15%

教科書

臨床実習の手引き

参考書

臨床実習教育の手引き　第６版　日本理学療法士協会　2020

授 業 科 目	単位数	年次	学期	時間数	担　当　教　員
（必）臨床総合実習Ⅱ	１０	４	前期	４５０	理学療法学科本校講師

授業概要

４年次に医療機関もしくは福祉施設における10週間の実習を行う。学内外で修得した知識と技術を、実習の対象者に応用し、将来理学療法士として対象者に接する際に必要な基本的知識・技術・態度を身につける。

学習目標

１．基本的な評価および治療・訓練・指導などを実践することができる。
２．理学療法関連の問題を解決するための能力として、理学療法プロセスを適切に展開することができる。
３．専門職として適切な態度と習慣を身につけることができる。

授業計画

実　習　期　間	
令和５年５月８日（月）～７月２２日（土）	臨床総合実習Ⅱ
令和５年８月１６日（水）～９月１日（金）	臨床実習後試験・成果報告会

履修の認定

臨床実習指導者の評価 40%
臨床実習後試験（ペーパー試験、実技試験）30%
臨床実習ポートフォリオ 10%
成果報告会 10%
成果報告会資料 10%

教科書

臨床実習の手引き

参考書

臨床実習教育の手引き　第６版　日本理学療法士協会　2020